少年院在院者の自己効力の変化に関する研究（その２）

矯正協会附属中央研究所　保　木　正　和
工　藤　弘　人[1]
古　曳　牧　人[2]
末　永　　清
栗　栖　素　子

キーワード：自己効力，自己効力感，セルフ・エフィカシー，効力予期，結果予期，処遇効果

Ⅰ　はじめに

本研究（その２）は，中央研究所紀要第14号に発表した「少年院在院者の自己効力の変化に関する研究（その１）」（以下「(その１)」という。）の続報である。

本研究は，少年院在院者に対して，横断的調査と縦断的調査を実施することで，少年院在院者の自己効力の変化の全体的な傾向を把握するとともに，変化のパターンを検討するという形式を採ることにしている。「(その１)」においては，横断的調査の結果を報告した。「(その２)」となる本研究においては，縦断的調査の結果を報告するとともに，２つの調査の結果について考察する。

Ⅱ　目的

少年院における効果的な教育の在り方や成績評価に資する観点から，少年院在院者の自己効力の変化を調査することを目的とする。

具体的には，一般性自己効力，仕事や非行等についての自己効力，結果予期を調査し，これらの関連について検討する。また，少年院での在院少年に対するどのような働き掛けが，少年の各種自己効力の変化に影響するのか，その情報源についても調査する。

---

[1] 現所属：矯正研修所東京支所

[2] 現所属：川越少年刑務所

Ⅲ　方法

1　縦断的調査と横断的調査

本研究では，少年院在院者の自己効力の変化をとらえる方法として，横断的調査（ある時点において，異なる教育過程にある別々の対象者に実施する調査）と，縦断的調査（教育過程を追って同一対象者に複数回行う調査）の２種類を採用した。変化を詳細に検討するためには，調査対象者全員に縦断的調査を実施することが理想的であるが，現実的にはそれが困難であるので，まず，大規模な横断的調査のデータによって全体的な傾向を把握し，これに，縦断的調査のデータをもって，変化のパターンを検討するという形式を採った。このような調査方法から，本研究の調査期間は２年間となっている。今回は，縦断的調査の方法のみ記載し，横断的調査の研究方法については「(その１)」を参照されたい。

2　調査期間

調査期間は，平成15年10月から平成16年10月末までである。

なお，調査実施日は，各施設で決定しているため，施設ごとに異なっている。

3　調査方法

(1)　調査対象施設

調査対象施設は，11の少年院であり，その内訳は，短期処遇を実施する少年院（以下「短期処遇」という。）６施設，長期処遇を実施する少年院（以下「長期処遇」という。）５施設である。

(2)　調査対象者

各施設が指定した調査日に在院している少年を調査対象とした。したがって，対象者数は各施設によって異なる。

短期処遇・長期処遇併設の施設においては，長期処遇の者のみを，また，短期処遇においては，特修短期処遇の者を除外し，一般短期処遇の者のみを対象としている。

なお，対象施設はすべて男子を収容する少年院である。

回収した調査票総数は，344名であった。そのうち回答に不備がない338名分を有効回答として，分析の対象とした（有効回答率：98.3%）。平均年齢は，全体で17.4歳，短期処遇は17.7歳，長期処遇は17.1歳であった。

処遇課程等別の有効回答数は，短期処遇170名，長期処遇168名であった。

調査対象者の属性は，巻末の資料１にまとめて示す。

(3)　調査票

ア　職員調査票

イ　少年用調査票Ⅰ（新入時教育過程（以下「新入時」という。））

ウ　少年用調査票Ⅱ（中間期教育過程（以下「中間期」という。））

エ　少年用調査票Ⅲ（出院準備教育過程（以下「出院期」という。））

調査票の詳細については，資料２を参照されたい。

なお，短期処遇の収容期間は，約６か月と短いため，調査票の「ウ」は実施していない。また，資料２には，「ア　職員用調査票」と「エ　少年用調査票Ⅲ（出院期）」を載せている。「ウ」については，「エ」とほとんど同じであり，また，「イ」に関しても，「エ」から一部の質問項目を除いたものになっている。

(4)　調査方法

時間の経過を追って，同一対象者に数回の調査を実施し，それぞれの時期における入院時との変化について尋ねている。調査の実施回数は，短期処遇においては，新入時と出院期の２回，長期処遇においては，新入時，中間期及び出院期の３回である。

4　調査内容

調査内容については，前回報告を参照されたい。

Ⅳ　結果

各種属性の集計結果については，資料１を参照されたい。

1　自己効力について

(1)　一般性自己効力（GSE）について

一般性自己効力の下位尺度については「(その１)」で用いた「失敗に対する不安」，「行動の積極性」，「能力の社会的位置づけ」を用いて分析した。

短期処遇の各教育過程別（新入時，出院期）に，GSE尺度の下位尺度得点の平均を算出し，t検定を行った結果を表１，図１に示す。「失敗に対する不安」の平均値が出院期のほうが有意に高くなっており（$t=3.00$，$p<.05$），「能力の社会的位置づけ」の平均値が新入時のほうが有意に高くなっている（$t=2.67$，$p<.05$）。

表１　短期処遇における教育過程別GSE下位尺度のｔ検定

尺度	対応サンプルの差			ｔ値
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
失敗に対する不安	-0.15	0.64	0.05	-3.00 *
行動の積極性	-0.08	0.52	0.04	-2.10
能力の社会的位置づけ	0.15	0.73	0.06	2.67 *

注）*は５％水準以下で有意であることを示す。

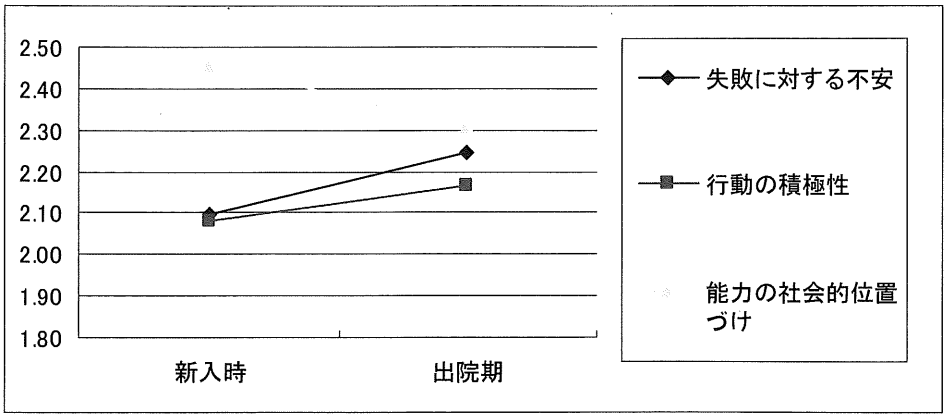


図１　短期処遇における教育過程別GSE下位尺度の平均値

表２　長期処遇における教育過程別GSE下位尺度の分散分析

尺度		新入時	中間期	出院期	合計	F値
失敗に対する不安	度数	168	168	168	504	F（2,501）＝1.06
	平均値	2.09	2.16	2.19	2.15	
	標準偏差	0.66	0.70	0.64	0.67	
行動の積極性	度数	168	168	168	504	F（2,501）＝0.04
	平均値	2.36	2.38	2.37	2.37	
	標準偏差	0.72	0.79	0.68	0.73	
能力の社会的位置づけ	度数	168	168	168	504	F（2,501）＝2.36
	平均値	2.50	2.42	2.32	2.41	
	標準偏差	0.82	0.81	0.73	0.79	

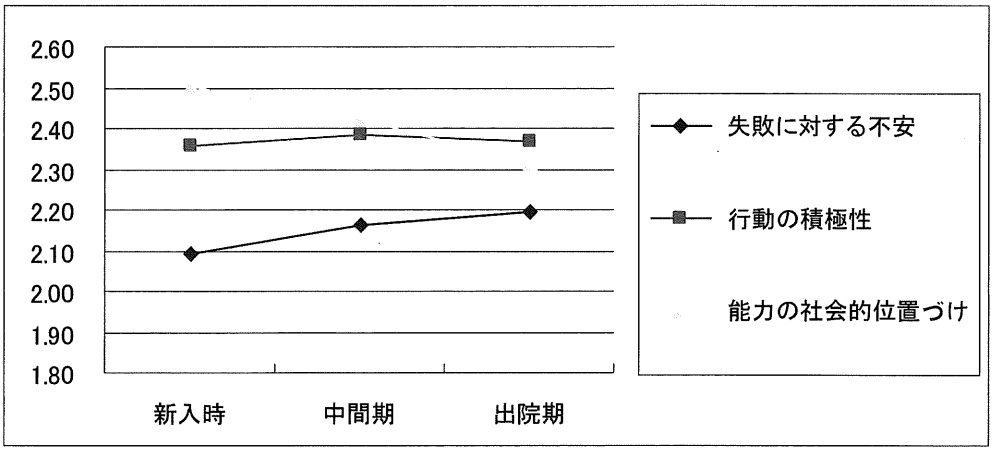


図２　長期処遇における教育過程別GSE下位尺度の平均値

長期処遇の各教育過程別（新入時，中間期，出院期）にGSE尺度の下位尺度得点の平均値を算出し，一元配置分散分析を行った結果を，表２，図２に示す。各因子とも各教育過程間での有意差は見られなかった。

(2) 対人的自己効力（対人SE）について

対人的自己効力の下位尺度については「(その１)」で用いた「友人への信頼・安定感」,「友人からの信頼」,「対人スキルの自信」,「肯定的自己評価」を用いて分析した。

短期処遇の各教育過程別（新入時，出院期）に対人SE尺度の下位尺度得点の平均を算出し，t検定を行った結果を表３，図３に示す。「友人への信頼・安定感」($t=3.95$, $p<.01$）及び「友人からの信頼」($t=4.11$, $p<.01$）の平均値は出院期のほうが有意に高くなっている。また，「肯定的自己評価」の平均値は新入時のほうが有意に高くなっている（$t=4.58$, $p<.01$)。

長期処遇の各教育過程別（新入時，中間期，出院期）に，対人SE尺度の下位尺度得点の平均値を算出し，一元配置分散分析を行った結果を表４，図４に示す。「友人への信頼・安定感」($F(2, 501)=8.85$, $p<.01$)，「友人からの信頼」($F(2, 501)$

表３　短期処遇における教育過程別対人SE下位尺度の分散分析

尺度	対応サンプルの差			t 値
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
友人への信頼・安定感	-0.19	0.64	0.05	-3.95 **
友人からの信頼	-0.20	0.62	0.05	-4.11 **
対人スキルの自信	-0.01	0.70	0.05	-0.13
肯定的自己評価	0.29	0.84	0.06	4.58 **

注）**は１％水準以下で有意であることを示す。

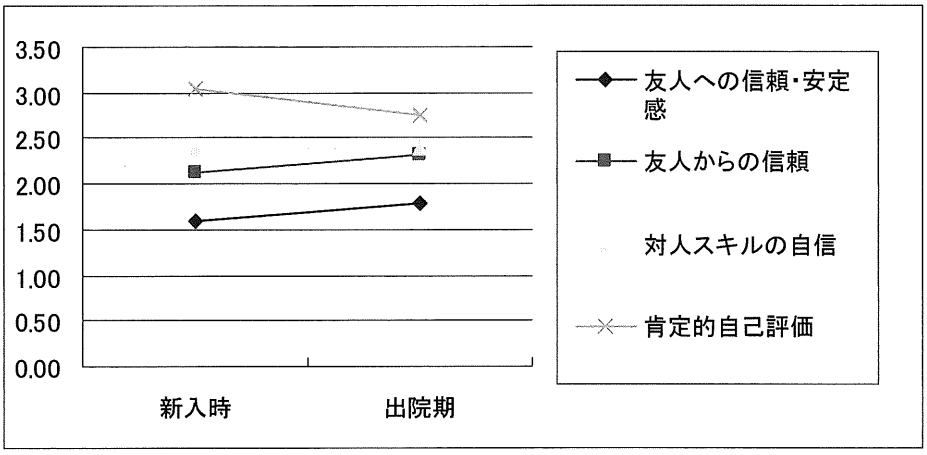


図３　短期処遇における教育過程別対人SE下位尺度の平均値

表４　長期処遇における教育過程別対人SE下位尺度の分散分析

尺度		新入時	中間期	出院期	F値
友人への信頼・安定感	度数	168	168	168	
	平均値	1.75	1.88	2.10	F＝（2,501）=8.85 **
	標準偏差	0.72	0.84	0.77	新入，中間＜出院
友人からの信頼	度数	168	168	168	
	平均値	2.26	2.35	2.45	F＝（2,501）=3.51 *
	標準偏差	0.68	0.69	0.63	新入＜出院
対人スキルの自信	度数	168	168	168	
	平均値	2.55	2.58	2.55	F＝（2,501）=0.13
	標準偏差	0.81	0.82	0.76	
肯定的自己評価	度数	168	168	168	
	平均値	3.13	3.03	2.88	F＝（2,501）=4.81 *
	標準偏差	0.74	0.78	0.72	新入＞出院

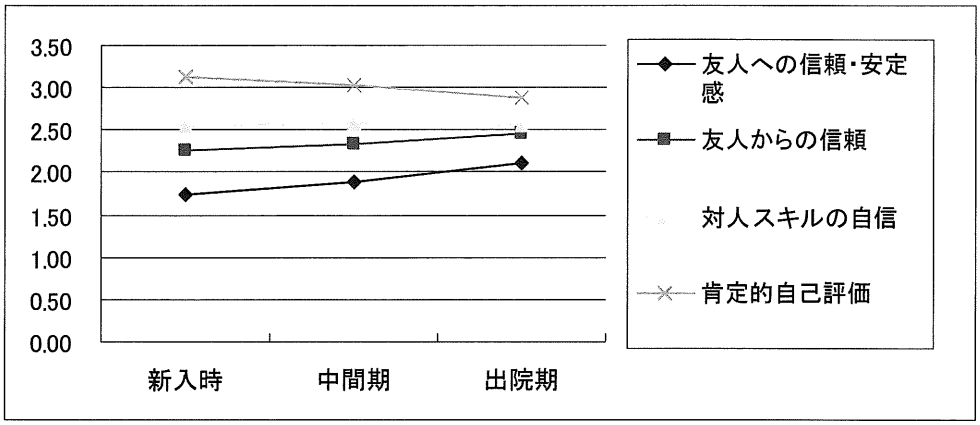


図４　長期処遇における教育過程別対人SE下位尺度の平均値

＝3.51，p<.05)，「肯定的自己評価」（F（2，501）＝4.81，p<.01）で有意な主効果が認められた。それぞれについてＬＳＤ検定による多重比較を行ったところ，「友人への信頼・安定感」では出院期は新入時及び中間期よりも有意に高く，「友人からの信頼」では，出院期は新入時よりも有意に高く，「肯定的自己評価」では，新入時は出院期よりも有意に高くなっている。

(3)　非行的自己効力（非行 SE）について

非行的自己効力の下位尺度については「(その１)」で用いた「メンバーとの関係」，「非行に対する有能感」，「緊張性・失敗性不安」を用いて分析した。

短期処遇の各教育過程別（新入時，出院期）に，非行 SE 尺度の下位尺度得点の平均を算出し，t 検定を行った結果を表５，図５に示す。また，長期処遇の各教育過程別（新入時，中間期，出院期）に非行 SE 尺度の下位尺度得点の平均値を算出し，一

元配置分散分析を行った結果を表６，図６に示す。各因子とも短期処遇・長期処遇の各教育過程間での有意差は見られなかった。

(4) 仕事の自己効力（仕事 SE）について

「(その１)」と同様に合計得点を尺度得点として，短期処遇の各教育過程別（新入時，出院期）の差を見るためにｔ検定を行ったが，有意な差は見られなかった（表７，図７）。同様に長期処遇の各教育過程別（新入時，中間期，出院期）に，一元配置分

表５　短期処遇における非行SE下位尺度の分散分析

尺度	対応サンプルの差			ｔ値
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
メンバーとの関係	0.02	0.66	0.05	0.36
非行に対する有能感	-0.10	0.65	0.05	-1.93
緊張性・失敗性不安	0.07	0.76	0.06	1.26

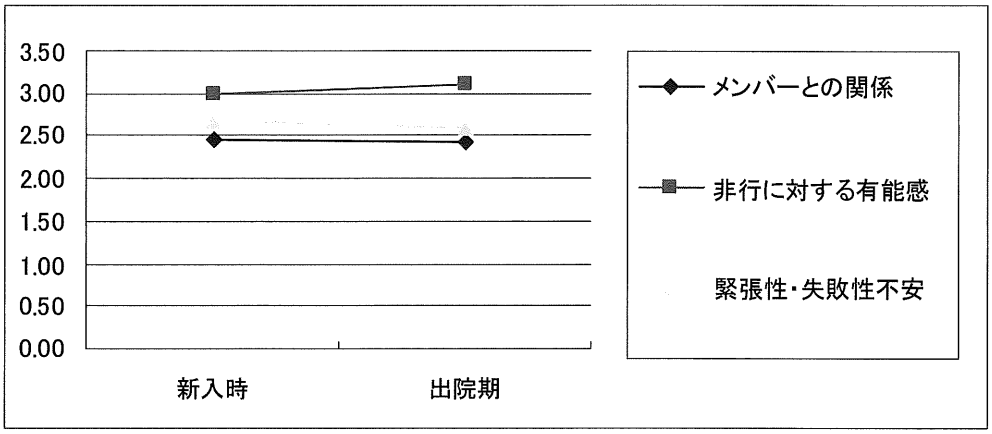


図５　短期処遇における教育過程別対人SE下位尺度の平均値

表６　長期処遇における教育過程別非行SE下位尺度の分散分析

尺度		新入時	中間期	出院期	Ｆ値
メンバーとの関係	度数	168	168	168	F＝（2,501）＝1.347
	平均値	2.48	2.37	2.46	
	標準偏差	0.72	0.68	0.69	
非行に対する有能感	度数	168	168	168	F＝（2,501）＝0.569
	平均値	3.03	2.97	3.06	
	標準偏差	0.76	0.83	0.78	
緊張性・失敗性不安	度数	168	168	168	F＝（2,501）＝0.965
	平均値	2.65	2.67	2.66	
	標準偏差	0.76	0.77	0.81	

散分析を行ったが，有意差は見られなかった（表８，図８）。

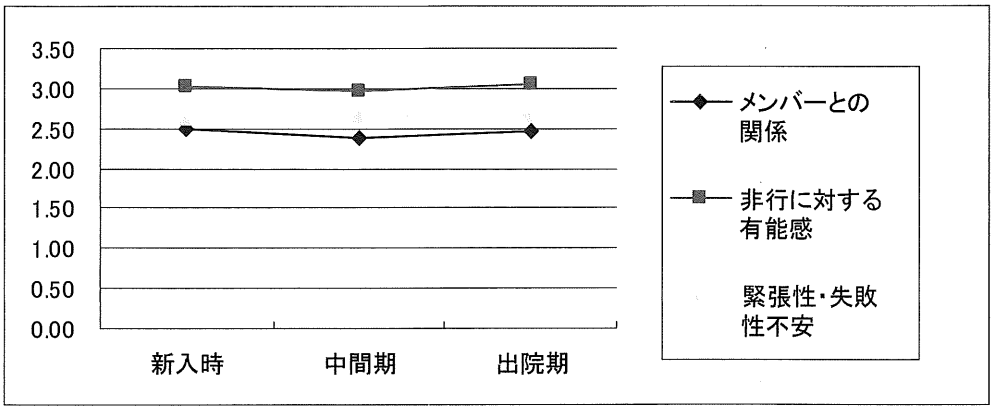


図６　長期処遇における教育過程別非行SE下位尺度の平均値

表７　短期処遇における教育過程別仕事SE下位尺度のｔ検定

尺度	対応サンプルの差			ｔ値
	平均値	標準偏差	平均値の標準誤差	
仕事に対する効力	0.09	0.49	0.04	2.48

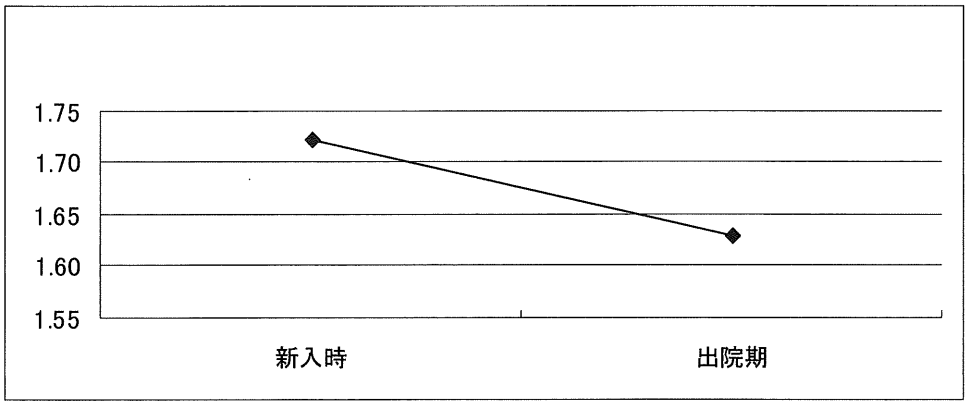


図７　短期処遇における教育過程別仕事SE尺度の平均値

表８　長期処遇における教育過程別仕事SE尺度の分散分析

尺度		新入時	中間期	出院期	Ｆ値
仕事に対する効力	度数	168	168	168	Ｆ＝（2,501）＝0.54
	平均値	1.87	1.82	1.79	
	標準偏差	0.72	0.67	0.63	

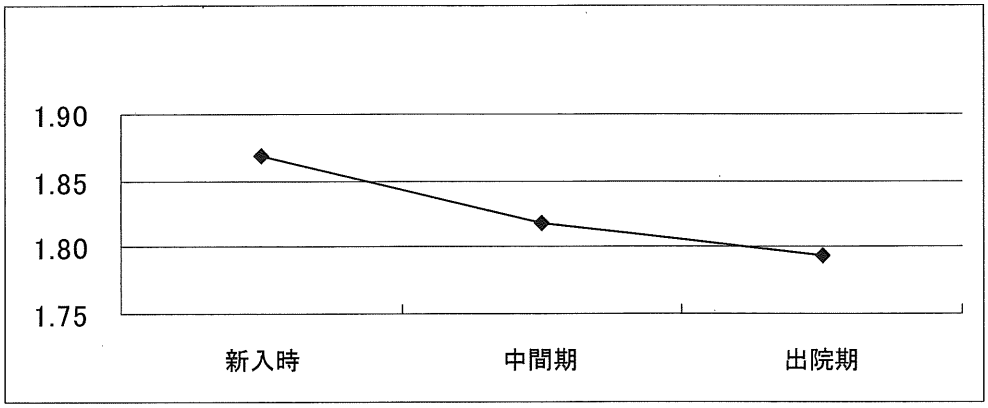


図８　長期処遇における教育過程別仕事SE尺度の平均値

２　自己効力の変化について

本研究においては，縦断的手法を取り入れていることから，実際の少年院での処遇において，在院少年の自己効力がどのように変化したのかを分析する。短期処遇においても，長期処遇においても，新入時と出院期の尺度得点を比較し，新入時より出院期が上昇している者，新入時より出院期が下降している者，新入時と出院期が同じ者の３つのパターンに分けて整理した。

(1)　一般性自己効力（GSE）の変化について

新入時と出院期のGSE下位尺度の変化を表９，図９～図11に示した。

短期処遇において，GSE下位尺度の「失敗に対する不安」の得点が新入時と比較して出院期で上がった者が52.4%，下がった者が35.3%，変化しない者が12.4%である。「行動の積極性」については，新入時より出院期が上がった者が48.2%，下がった者が34.7%，変化しない者が17.1%である。「能力の社会的位置づけ」については，新入時より出院期が上がった者が30.6%，下がった者が43.5%，変化しない者が25.9%であり，GSE下位尺度においては，「能力の社会的位置づけ」のみが新入時よりも出院期が下がった者の割合が多い。

表９　教育過程別GSE下位尺度の変化

新入時と出院期との変化	短期処遇						長期処遇					
	失敗に対する不安		行動の積極性		能力の社会的位置づけ		失敗に対する不安		行動の積極性		能力の社会的位置づけ	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
新入時＜出院期	89	52.4%	82	48.2%	52	30.6%	77	45.8%	74	44.0%	50	29.8%
新入時＞出院期	60	35.3%	59	34.7%	74	43.5%	65	38.7%	66	39.3%	79	47.0%
新入時＝出院期	21	12.4%	29	17.1%	44	25.9%	26	15.5%	28	16.7%	39	23.2%
合計	170	100.0%	170	100.0%	170	100.0%	168	100.0%	168	100.0%	168	100.0%

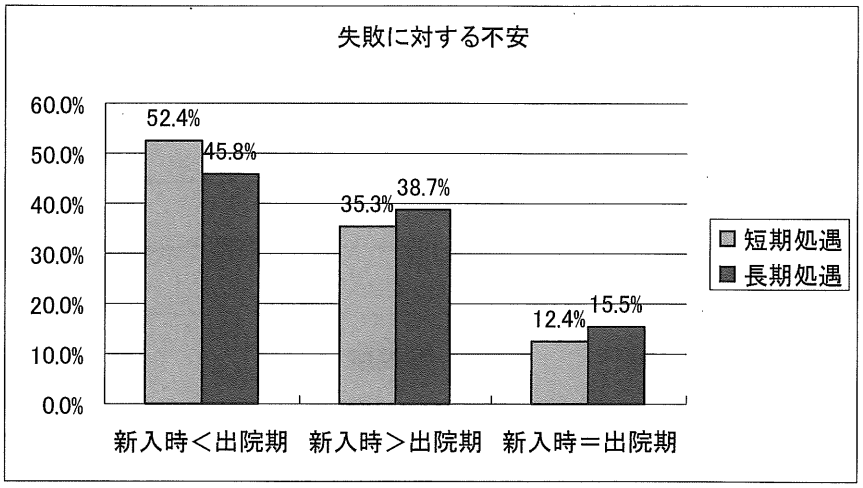


図９　教育過程別GSE下位尺度の変化

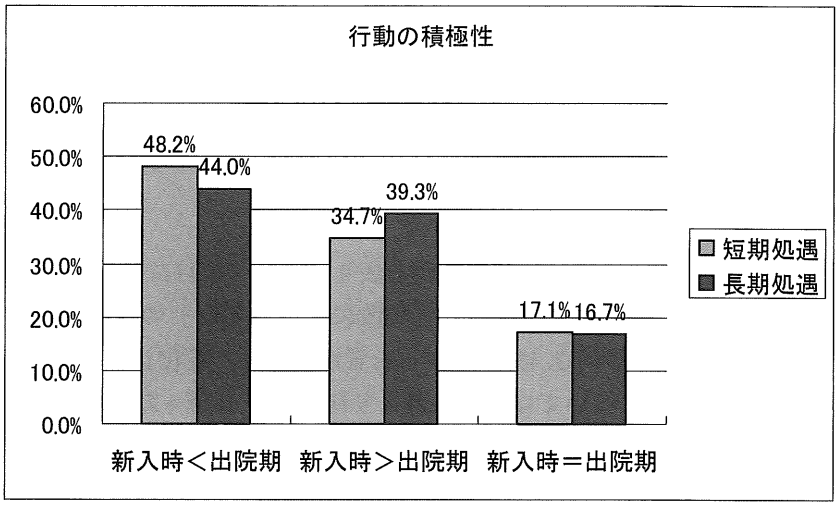


図10　教育過程別GSE下位尺度の変化

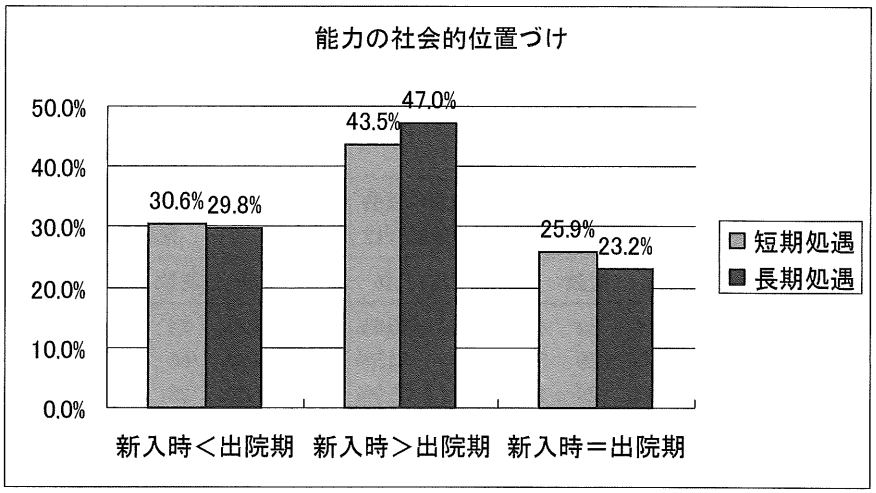


図11　教育過程別GSE下位尺度の変化

同様に長期処遇においても，「失敗に対する不安」の得点では，新入時より出院期が上がった者は45.8%，下がった者は38.7%，変化しない者は15.5%になっている。「行動の積極性」については，新入時より出院期が上がった者は44.0%，下がった者は39.3%，変化しない者は16.7%である。「能力の社会的位置づけ」については，新入時より出院期が上がった者は29.8%，下がった者は47.0%，変化しない者は23.2%となり，短期処遇と同じように「能力の社会的位置づけ」のみが新入時よりも出院期が下がった者の割合が多い。

また，短期処遇と長期処遇を比較すると，短期処遇の方が新入時に比べて出院期において得点が上昇した者が多い。

(2) 対人的自己効力（対人 SE）の変化について

新入時と出院期の対人 SE 下位尺度の変化を表10，図12～図15に示した。

短期処遇において GSE 下位尺度の「友人への信頼・安定感」の得点が新入時と比較して出院期で上がった者が52.9%，下がった者が27.1%，変化しない者が20.0%である。「友人からの信頼」については，新入時より出院期が上がった者が58.2%，下がった者が24.1%，変化しない者が17.6%，「対人スキルの自信」については，新入時より出院期が上がった者が39.4%，下がった者が36.5%，変化しない者が24.1%，「肯定的自己評価」については，新入時より出院期が上がった者が28.2%，下がった者が45.9%，変化しない者が25.9%であり，対人 SE 下位尺度においては，「肯定的自己評価」のみが新入時よりも出院期が下がった者の割合が多い。

同様に長期処遇においても，「友人への信頼・安定感」の得点が新入時と比較して出院期で上がった者が58.9%，下がった者が23.2%，変化しない者が17.9%である。「友人からの信頼」については，新入時より出院期が上がった者が54.2%，下がった者が30.4%，変化しない者が15.5%，「対人スキルの自信」については，新入時より出院期が上がった者が37.5%，下がった者が39.3%，変化しない者が23.2%，「肯定的自己評価」については，新入時より出院期が上がった者が19.6%，下がった者が41.1%，変化しない者が39.3%であり，対人 SE 下位尺度においては，「対人スキルの自信」と「肯定的自己評価」が新入時よりも出院期が下がった者の割合が多い。

表10　教育過程別対人SE下位尺度の変化

新入時と出院期との変化	短期処遇								長期処遇							
	友人への信頼・安定感		友人からの信頼		対人スキルの自信		肯定的自己評価		友人への信頼・安定感		友人からの信頼		対人スキルの自信		肯定的自己評価	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
新入時＜出院期	90	52.9%	99	58.2%	67	39.4%	48	28.2%	99	58.9%	91	54.2%	63	37.5%	33	19.6%
新入時＞出院期	46	27.1%	41	24.1%	62	36.5%	78	45.9%	39	23.2%	51	30.4%	66	39.3%	69	41.1%
新入時＝出院期	34	20.0%	30	17.6%	41	24.1%	44	25.9%	30	17.9%	26	15.5%	39	23.2%	66	39.3%
合計	170	100.0%	170	100.0%	170	100.0%	170	100.0%	168	100.0%	168	100.0%	168	100.0%	168	100.0%

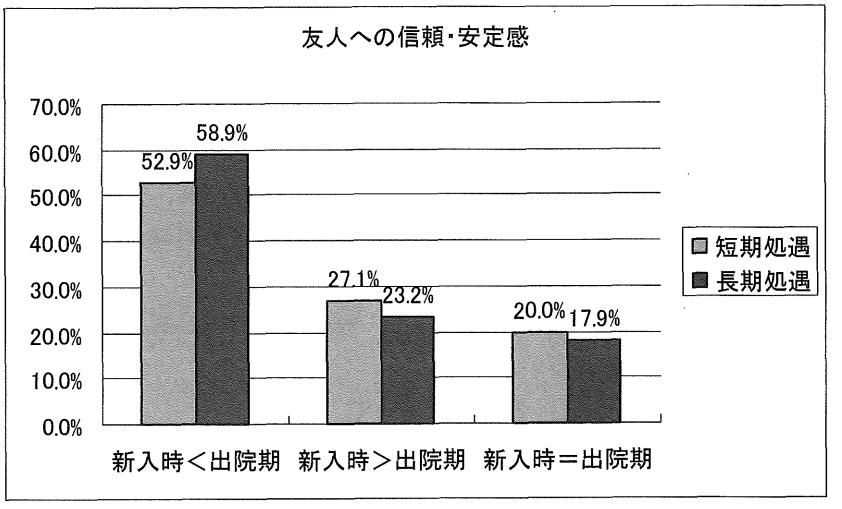


図12　教育過程別対人SE下位尺度の変化

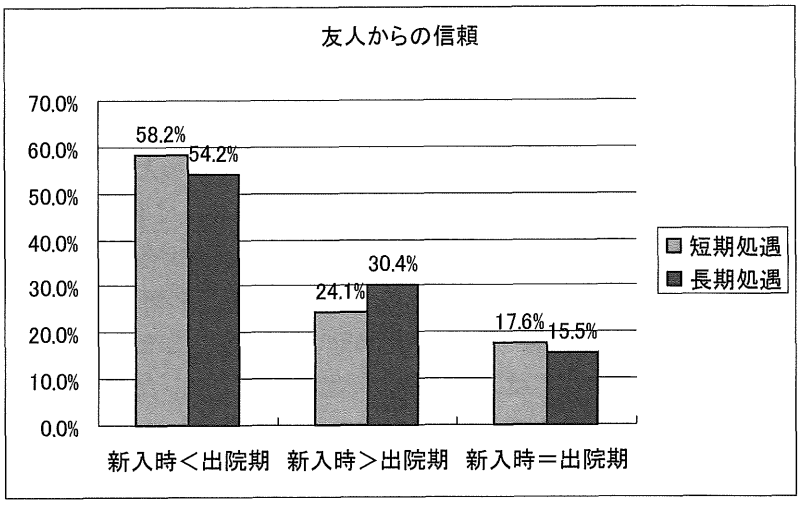


図13　教育過程別対人SE下位尺度の変化

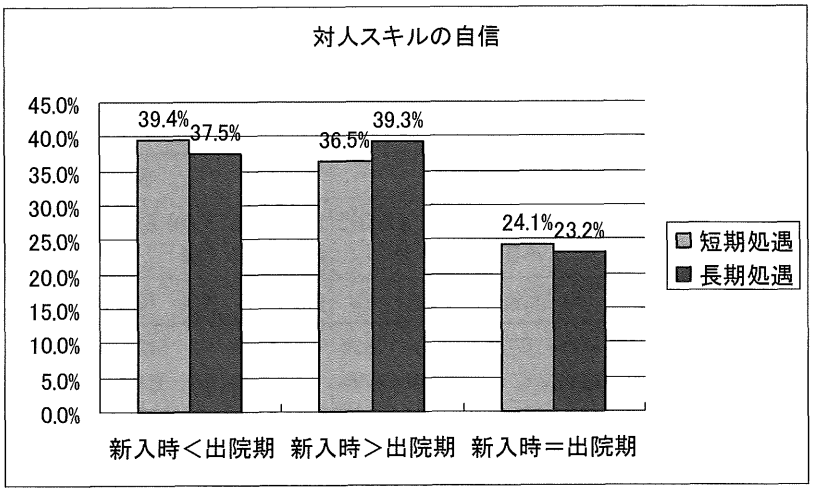


図14　教育過程別対人SE下位尺度の変化

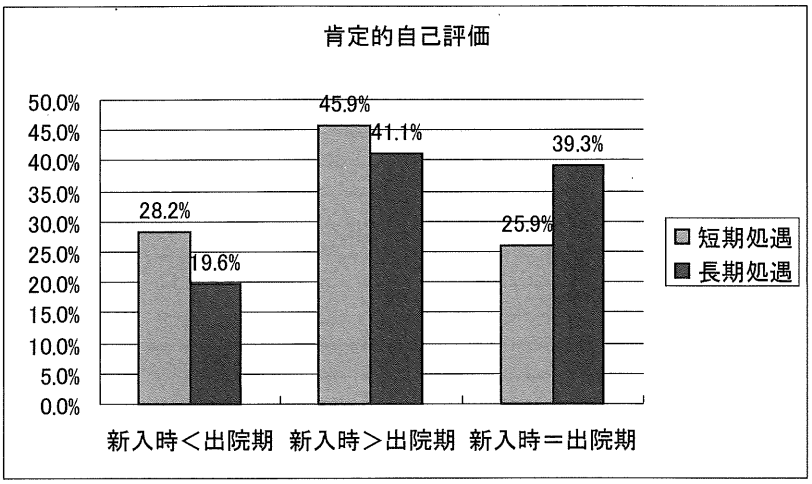


図15　教育過程別対人SE下位尺度の変化

(3)　非行的自己効力（非行 SE）の変化について

新入時と出院期の非行 SE 下位尺度の変化を表11，図16～図18に示した。

短期処遇において非行 SE 下位尺度の「メンバーとの関係」の得点が新入時と比較して，出院期で上がった者が39.4%，下がった者が47.1%，変化しない者が13.5%である。「非行に対する有能感」については，新入時より出院期が上がった者が38.8%，下がった者が32.4%，変化しない者が28.8%，「緊張性・失敗性不安」については，新入時より出院期が上がった者が35.5%，下がった者が41.8%，変化しない者が22.9%であり，非行 SE 下位尺度においては，「非行に対する有能感」のみが新入時よりも出院期が上がった者の割合が多い。

表11　教育過程別非行SE下位尺度の変化

新入時と出院期との変化	短期処遇						長期処遇					
	メンバーとの関係		非行に対する有能感		緊張性・失敗性不安		メンバーとの関係		非行に対する有能感		緊張性・失敗性不安	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
新入時＜出院期	67	39.4%	66	38.8%	60	35.3%	78	46.4%	64	38.1%	67	39.9%
新入時＞出院期	80	47.1%	55	32.4%	71	41.8%	76	45.2%	59	35.1%	73	43.5%
新入時＝出院期	23	13.5%	49	28.8%	39	22.9%	14	8.3%	45	26.8%	28	16.7%
合計	170	100.0%	170	100.0%	170	100.0%	168	100.0%	168	100.0%	168	100.0%

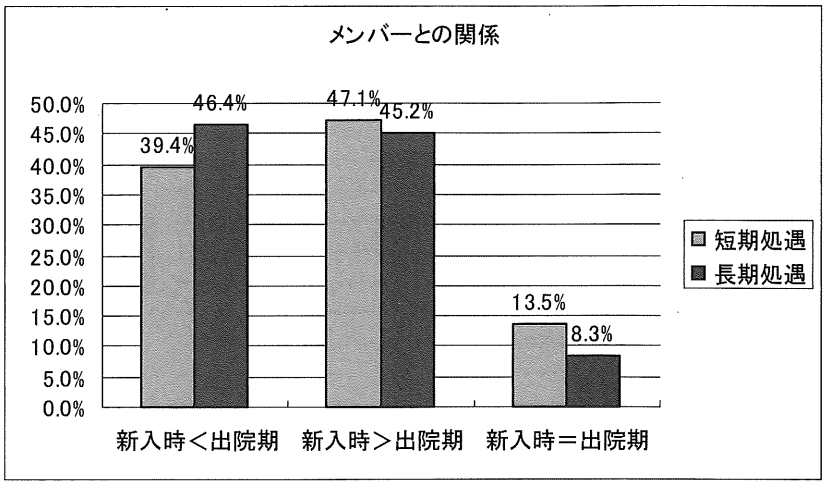


図16　教育過程別非行SE下位尺度の変化

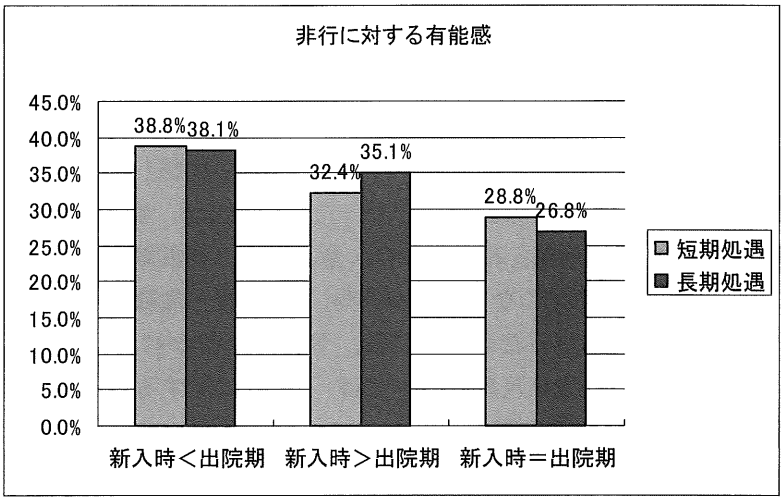


図17　教育過程別非行SE下位尺度の変化

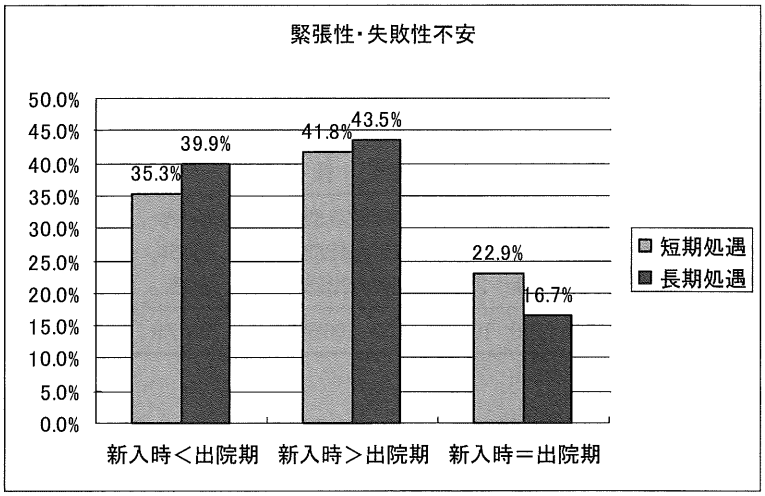


図18　教育過程別非行SE下位尺度の変化

同様に長期処遇においても，「メンバーとの関係」の得点が，新入時より出院期で上がった者が46.4%，下がった者が45.2%，変化しない者が8.3%である。「非行に対する有能感」については，新入時より出院期が上がった者が38.1%，下がった者が35.1%，変化しない者が26.8%，「緊張性・失敗性不安」については，新入時より出院期が上がった者が39.9%，下がった者が43.5%，変化しない者が16.7%であり，非行SE下位尺度においては，「緊張性・失敗性不安」のみが，新入時よりも出院期が下がった者の割合が大きい。

(4)　仕事の自己効力の変化について

新入時と出院期の仕事の自己効力の変化を表12，図19に示した。

短期処遇において仕事の自己効力の得点が新入時より出院期が上がった者が30.6%，下がった者が40.0%，変化しない者が29.4%になっている。

長期処遇においては出院期で上がった者が35.1%，下がった者が38.7%，変化しない者が26.2%になっている。

表12　教育過程別仕事SE尺度の変化

新入時と出院期との変化	短期処遇		長期処遇	
	度数	%	度数	%
新入時＜出院期	52	30.6%	59	35.1%
新入時＞出院期	68	40.0%	65	38.7%
新入時＝出院期	50	29.4%	44	26.2%
合計	170	100.0%	168	100.0%

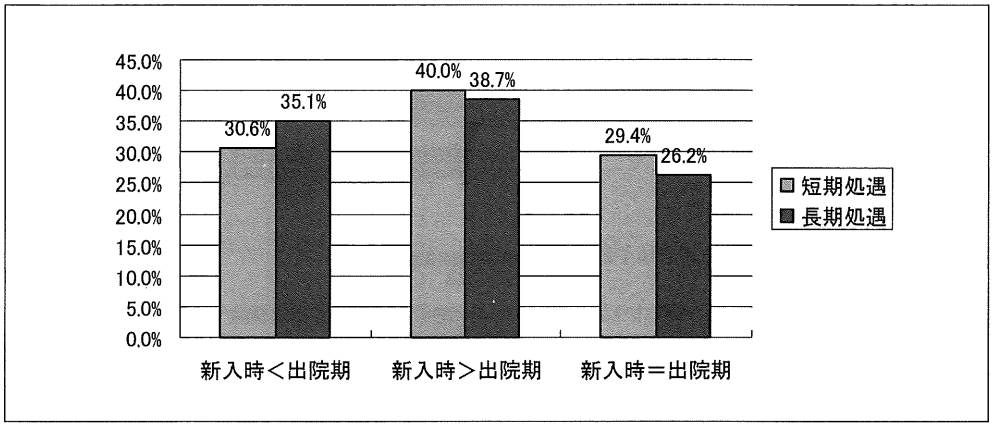


図19　教育過程別仕事SE尺度の変化

3　自己効力の変化と情報源について

(1)　仕事

ア　短期処遇

短期処遇において，入院時と比較して自信をなくした者（自己効力が低下した者）は７名，自信がついた者（自己効力が上昇した者）は162名であった。

自信がついた者が最も影響を受けたものとして「実科や実習，資格の取得などを通して」(34.0%)を選択しており，次に，「家族との面会や手紙を通して」(30.9%)を選択している。この結果については，表13，図20に示す。

表13　短期処遇における仕事についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	22	1	23	
		(%)	13.6	14.3	13.6	
		調整済み残差	-0.05	0.05		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	55	2	57	
		(%)	34.0	28.6	33.7	
		調整済み残差	0.29	-0.29		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	2	0	2	
		(%)	1.2	0.0	1.2	
		調整済み残差	0.30	-0.30		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	12	1	13	
		(%)	7.4	14.3	7.7	
		調整済み残差	-0.67	0.67		χ^2（６）＝14.67*
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	20	2	22	
		(%)	12.3	28.6	13.0	
		調整済み残差	-1.25	1.25		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	1	1	2	
		(%)	0.6	14.3	1.2	
		調整済み残差	-3.27	3.27		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	50	0	50	
		(%)	30.9	0.0	29.6	
		調整済み残差	1.75	-1.75		
合計		度数	162	7	169	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

注　問２については度数が０であり，分析から除外した。

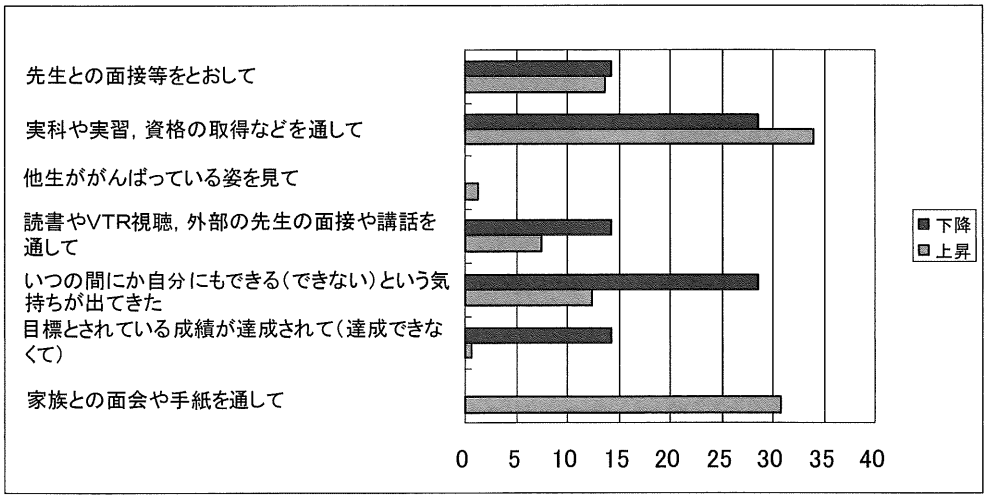


図20　短期処遇における仕事についての自信度

イ　長期処遇

中間期において，入院時と比較して自信をなくした者は22名，自信がついた者は146名であった。

自信をなくした者が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」（36.4%）であり，自信がついた者が最も影響を受けたものとして「実科や実習，資格の取得などを通して」（37.0%）である。この結果については表14，図21に示す。

表14　長期処遇（中間期）における仕事についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	19	0	19	
		(%)	13.0	0.0	11.3	
		調整済み残差	1.80	-1.80		
問２	他生との話の中で	度数	3	0	3	
		(%)	2.1	0.0	1.8	
		調整済み残差	0.68	-0.68		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	54	5	59	
		(%)	37.0	22.7	35.1	
		調整済み残差	1.31	-1.31		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	4	0	4	
		(%)	2.7	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.79	-0.79		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	9	5	14	
		(%)	6.2	22.7	8.3	χ^2（７）＝17.29*
		調整済み残差	-2.62	2.62		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	21	8	29	
		(%)	14.4	36.4	17.3	
		調整済み残差	-2.54	2.54		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	3	0	3	
		(%)	2.1	0.0	1.8	
		調整済み残差	0.68	-0.68		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	33	4	37	
		(%)	22.6	18.2	22.0	
		調整済み残差	0.47	-0.47		
合計		度数	146	22	168	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

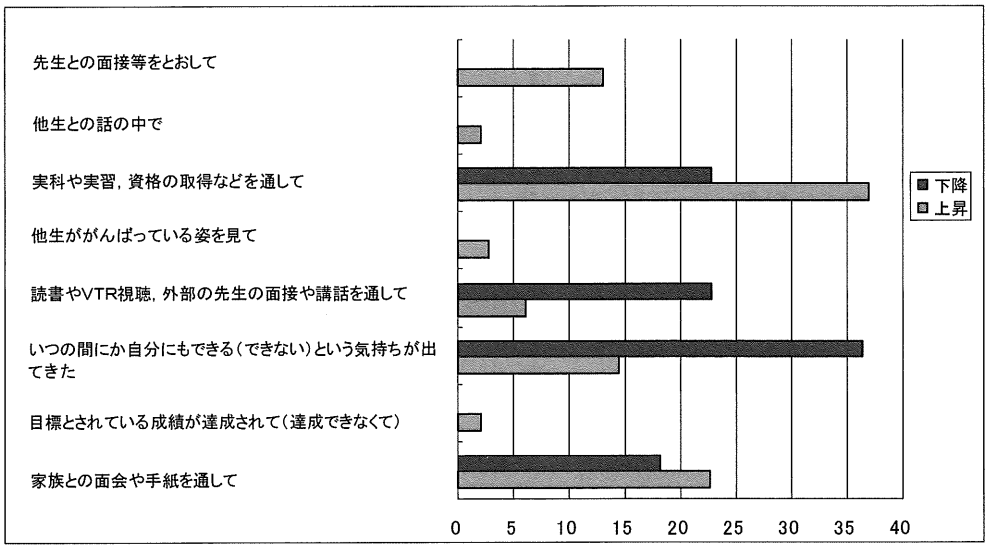


図21　長期処遇（中間期）における仕事についての自信度

出院期において，入院時と比較して自信をなくした者は11名，自信がついた者は156名であった。自信をなくした者が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」と「実科や実習，資格の取得などを通して」（各36.4%）を選択し，自信がついた者が最も影響を受けたものとして「実科や実習，資格の取得などを通して」（44.9%）を選択している。この結果については表15，図22に示す。

表15　長期処遇（出院期）における仕事についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問1	先生との面接等をとおして	度数	22	0	22	
		(%)	14.1	0.0	13.2	
		調整済み残差	1.34	-1.34		
問2	他生との話の中で	度数	1	0	1	
		(%)	0.6	0.0	0.6	
		調整済み残差	0.27	-0.27		
問3	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	70	4	74	
		(%)	44.9	36.4	44.3	
		調整済み残差	0.55	-0.55		
問4	他生ががんばっている姿を見て	度数	3	0	3	
		(%)	1.9	0.0	1.8	
		調整済み残差	0.46	-0.46		
問5	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	8	0	8	
		(%)	5.1	0.0	4.8	χ^2（7）＝8.20
		調整済み残差	0.77	-0.77		
問6	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	20	4	24	
		(%)	12.8	36.4	14.4	
		調整済み残差	-2.15	2.15		
問7	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	9	0	9	
		(%)	5.8	0.0	5.4	
		調整済み残差	0.82	-0.82		
問8	家族との面会や手紙を通して	度数	23	3	26	
		(%)	14.7	27.3	15.6	
		調整済み残差	-1.11	1.11		
合計		度数	156	11	167	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

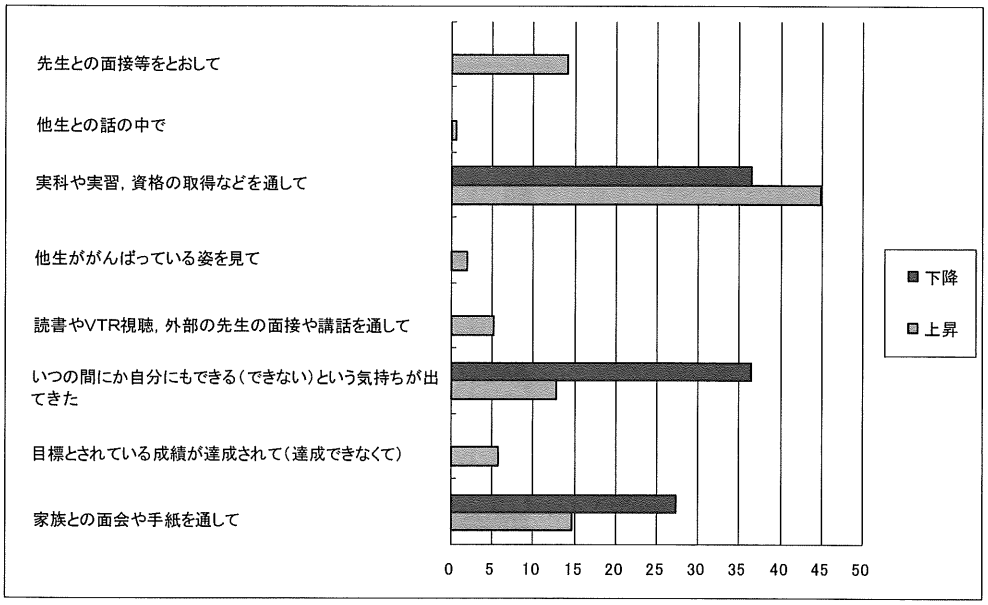


図22　長期処遇（出院期）における仕事についての自信度

(2) 交友

ア　短期処遇

短期処遇において，入院時と比較して自信をなくした者（自己効力が低下した者）は９名，自信がついた者（自己効力が上昇した者）は155名であった。

自信をなくした者も，自信がついた者も，最も影響を受けたものとして「先生の面接等をとおして」(44.4%，41.3%）を選択している。この結果については，表16，図23に示す。

表16　短期処遇における交友関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	64	4	68	
		(%)	41.3	44.4	41.5	
		調整済み残差	-0.19	0.19		
問２	他生との話の中で	度数	16	1	17	
		(%)	10.3	11.1	10.4	
		調整済み残差	-0.08	0.08		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	4	1	5	
		(%)	2.6	11.1	3.0	
		調整済み残差	-1.45	1.45		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	6	0	6	
		(%)	3.9	0.0	3.7	
		調整済み残差	0.60	-0.60		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	9	0	9	χ^2（７）＝3.54
		(%)	5.8	0.0	5.5	
		調整済み残差	0.74	-0.74		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	9	1	10	
		(%)	5.8	11.1	6.1	
		調整済み残差	-0.65	0.65		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	1	0	1	
		(%)	0.6	0.0	0.6	
		調整済み残差	0.24	-0.24		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	46	2	48	
		(%)	29.7	22.2	29.3	
		調整済み残差	0.48	-0.48		
合計		度数	155	9	164	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

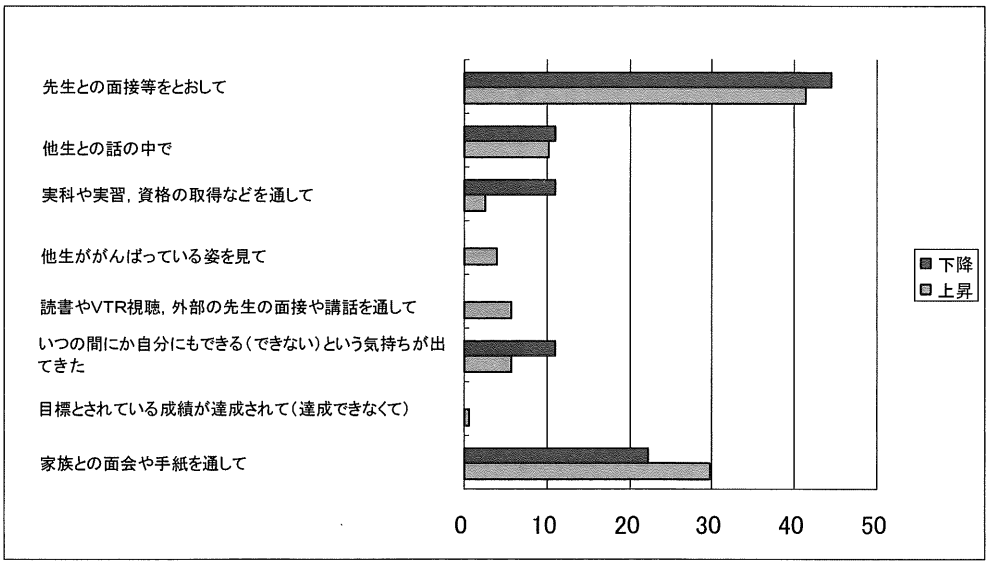


図23　短期処遇における交友関係についての自信度

イ　長期処遇

中間期において，入院時と比較して，自信をなくした者（30名）が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」（33.3%）を選択し，自信がついた者（138名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」（30.4%）を選択している。この結果については表17，図24に示す。

表17　長期処遇（中間期）における交友関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問1	先生との面接等をとおして	度数	41	3	44	
		(%)	29.7	10.0	26.19	
		調整済み残差	2.23	-2.23		
問2	他生との話の中で	度数	22	5	27	
		(%)	15.9	16.7	16.07	
		調整済み残差	-0.10	0.10		
問4	他生ががんばっている姿を見て	度数	3	2	5	
		(%)	2.2	6.7	2.98	
		調整済み残差	-1.31	1.31		
問5	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	7	0	7	
		(%)	5.1	0.0	4.17	
		調整済み残差	1.26	-1.26		χ^2（6）＝17.72*
問6	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	21	10	31	
		(%)	15.2	33.3	18.45	
		調整済み残差	-2.32	2.32		
問7	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	2	3	5	
		(%)	1.5	10.0	2.98	
		調整済み残差	-2.50	2.50		
問8	家族との面会や手紙を通して	度数	42	7	49	
		(%)	30.4	23.3	29.17	
		調整済み残差	0.78	-0.78		
合計		度数	138	30	168	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

注　問3については度数が0であり，分析から除外した。

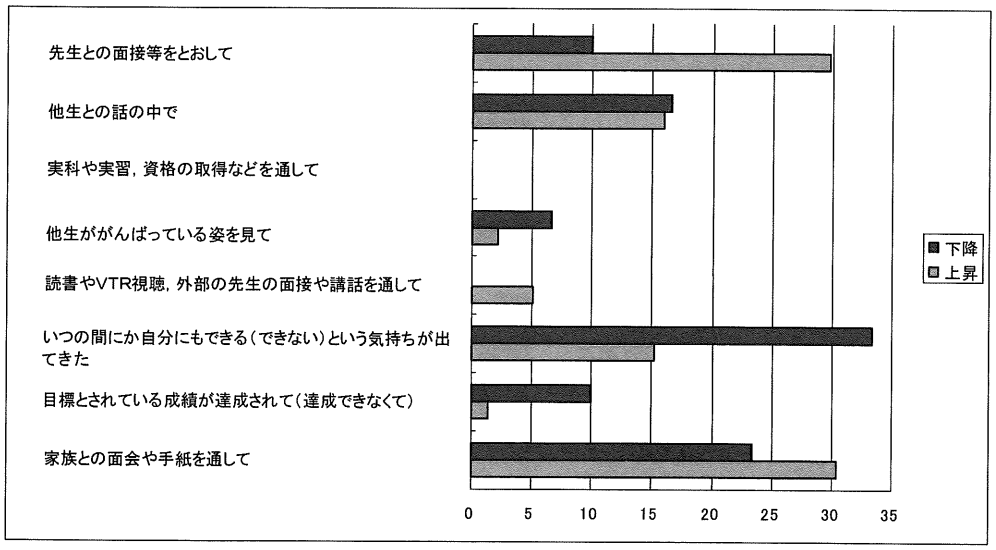


図24　長期処遇（中間期）における交友関係についての自信度

出院期において，入院時と比較して自信をなくした者（25名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」（32.0%）を選択し，自信がついた者（143名）が最も影響を受けたものとして「先生との面接等をとおして」（37.1%）を選択している。この結果については表18，図25に示す。

表18　長期処遇（出院期）における交友関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	53	6	59	
		(%)	37.1	24.0	35.1	
		調整済み残差	1.26	-1.26		
問２	他生との話の中で	度数	22	4	26	
		(%)	15.4	16.0	15.5	
		調整済み残差	-0.08	0.08		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	2	0	2	
		(%)	1.4	0.0	1.2	
		調整済み残差	0.59	-0.59		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	3	0	3	
		(%)	2.1	0.0	1.8	
		調整済み残差	0.73	-0.73		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	6	2	8	χ^2（７）＝4.58
		(%)	4.2	8.0	4.8	
		調整済み残差	-0.82	0.82		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	18	5	23	
		(%)	12.6	20.0	13.7	
		調整済み残差	-0.99	0.99		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	4	0	4	
		(%)	2.8	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.85	-0.85		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	35	8	43	
		(%)	24.5	32.0	25.6	
		調整済み残差	-0.80	0.80		
合計		度数	143	25	168	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

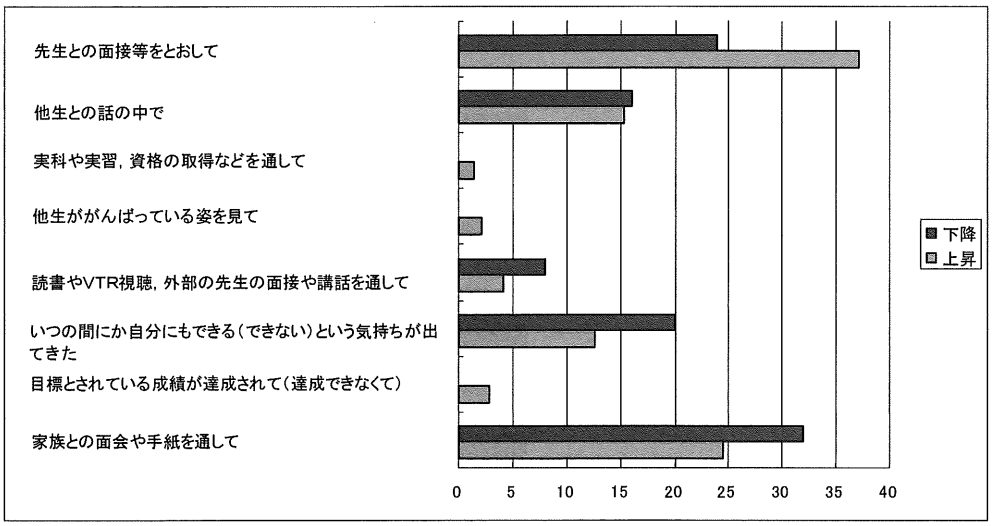


図25　長期処遇（出院期）における交友関係についての自信度

(3) 対人関係

ア　短期処遇

短期処遇において，入院時と比較して，自信をなくした者（自己効力が低下した者）は12名，自信がついた者（自己効力が上昇した者）は157名であった。

自信がついた者が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」(38.9%) を選択している。この結果については，表19，図26に示す。

表19　短期処遇における対人関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問1	先生との面接等をとおして	度数	34	1	35	
		(%)	21.7	8.3	20.7	
		調整済み残差	1.10	-1.10		
問2	他生との話の中で	度数	18	2	20	
		(%)	11.5	16.7	11.8	
		調整済み残差	-0.54	0.54		
問3	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	11	2	13	
		(%)	7.0	16.7	7.7	
		調整済み残差	-1.21	1.21		
問5	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	16	0	16	
		(%)	10.2	0.0	9.5	
		調整済み残差	1.16	-1.16		χ^2（6）＝26.22**
問6	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	14	3	17	
		(%)	8.9	25.0	10.1	
		調整済み残差	-1.79	1.79		
問7	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	3	3	6	
		(%)	1.9	25.0	3.6	
		調整済み残差	-4.17	4.17		
問8	家族との面会や手紙を通して	度数	61	1	62	
		(%)	38.9	8.3	36.7	
		調整済み残差	2.11	-2.11		
合計		度数	157	12	169	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

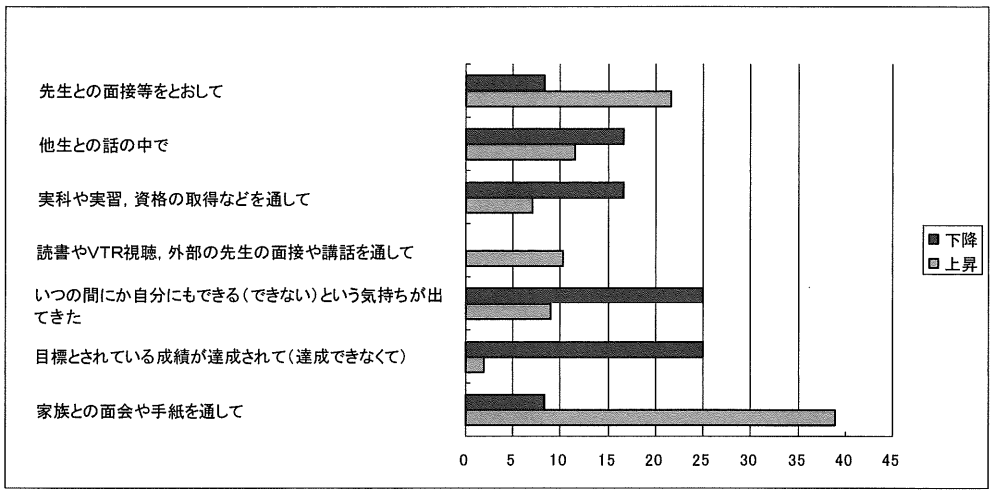


図26　短期処遇における対人関係についての自信度

イ　長期処遇

中間期において，入院時と比較して自信をなくした者（32名）が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」(31.3%)を選択し，自信がついた者（135名）が最も影響を受けたものとして「先生との面接等をとおして」(36.3%）を選択している。この結果については表20，図27に示す。

表20　長期処遇（中間期）における対人関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	49	9	58	
		(%)	36.3	28.1	34.7	
		調整済み残差	0.87	-0.87		
問２	他生との話の中で	度数	11	3	14	
		(%)	8.1	9.4	8.4	
		調整済み残差	-0.23	0.23		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	6	0	6	
		(%)	4.4	0.0	3.6	
		調整済み残差	1.21	-1.21		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	4	1	5	
		(%)	3.0	3.1	3.0	
		調整済み残差	-0.05	0.05		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	4	0	4	χ^2（７）＝20.54*
		(%)	3.0	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.99	-0.99		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	14	10	24	
		(%)	10.4	31.3	14.4	
		調整済み残差	-3.03	3.03		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	0	2	2	
		(%)	0.0	6.3	1.2	
		調整済み残差	-2.92	2.92		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	47	7	54	
		(%)	34.8	21.9	32.3	
		調整済み残差	1.41	-1.41		
合計		度数	135	32	167	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

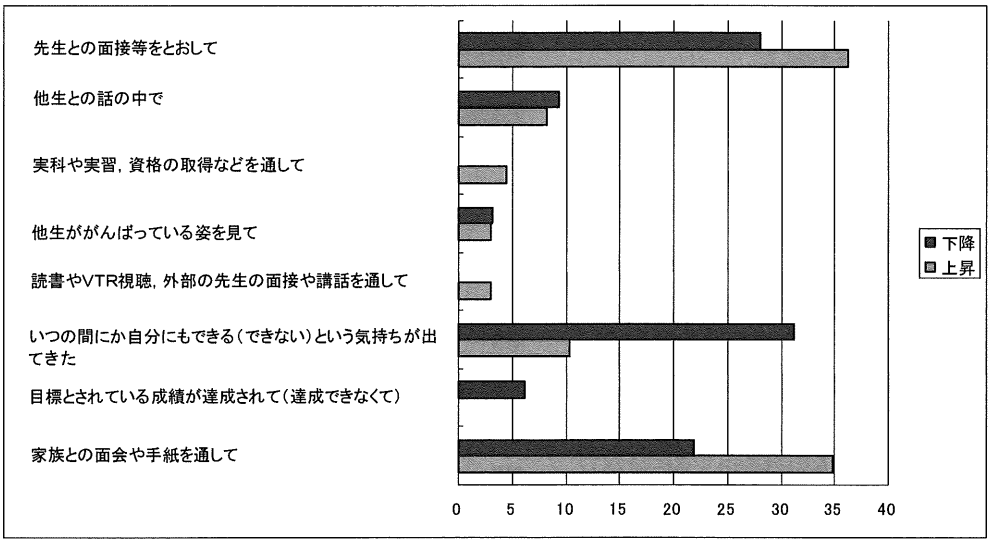


図27　長期処遇（中間期）における対人関係についての自信度

出院期において，入院時と比較して自信をなくした者（19名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」と「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」（各36.8%）を選択し，自信がついた者（147名）が最も影響を受けたものとして「先生との面接等をとおして」（33.3%）を選択している。この結果については表21，図28に示す。

表21　長期処遇（出院期）の対人関係についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問1	先生との面接等をとおして	度数	49	2	51	
		(%)	33.3	10.5	30.7	
		調整済み残差	2.03	-2.03		
問2	他生との話の中で	度数	11	3	14	
		(%)	7.5	15.8	8.4	
		調整済み残差	-1.23	1.23		
問3	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	11	0	11	
		(%)	7.5	0.0	6.6	
		調整済み残差	1.23	-1.23		
問4	他生ががんばっている姿を見て	度数	6	0	6	
		(%)	4.1	0.0	3.6	
		調整済み残差	0.90	-0.90		
問5	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	4	0	4	χ^2（7）＝15.80*
		(%)	2.7	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.73	-0.73		
問6	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	16	7	23	
		(%)	10.9	36.8	13.9	
		調整済み残差	-3.08	3.08		
問7	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	4	0	4	
		(%)	2.7	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.73	-0.73		
問8	家族との面会や手紙を通して	度数	46	7	53	
		(%)	31.3	36.8	31.9	
		調整済み残差	-0.49	0.49		
合計		度数	147	19	166	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

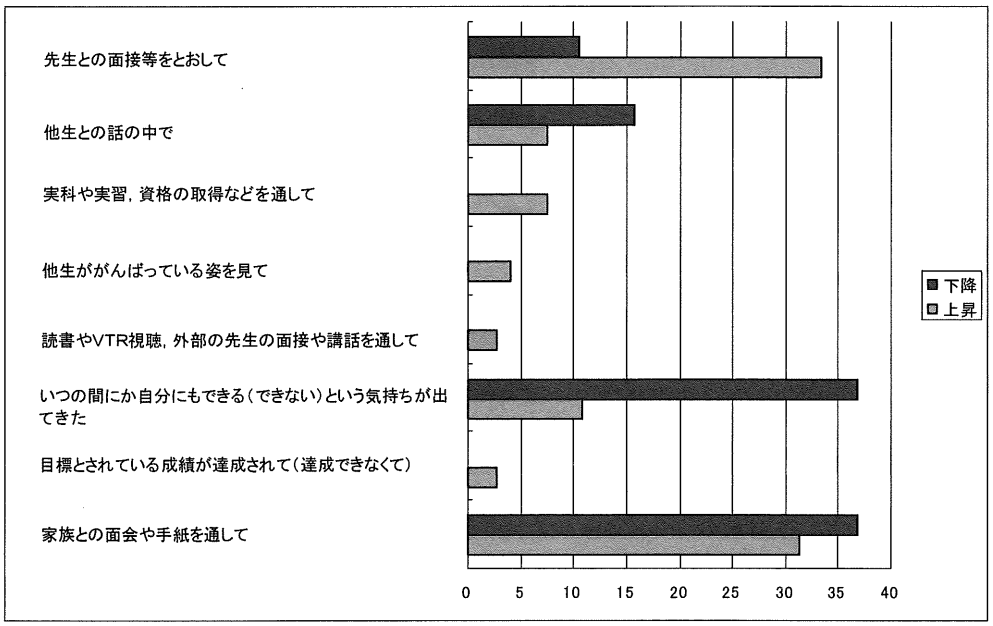


図28　長期処遇（出院期）の対人関係についての自信度

(4)　本件非行

ア　短期処遇

短期処遇において，入院時と比較して本件と同じ非行をしないという自信をなくした者（自己効力が低下した者）は２名，本件と同じ非行をしないという自信がついた者（自己効力が上昇した者）は164名であった。自信がついた者が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」(46.3%) を選択している。この結果については，表22，図29に示す。

表22　短期処遇の本件非行についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	45	0	45	
		(%)	27.4	0.0	27.1	
		調整済み残差	0.87	-0.87		
問２	他生との話の中で	度数	4	0	4	
		(%)	2.4	0.0	2.4	
		調整済み残差	0.22	-0.22		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	2	1	3	
		(%)	1.2	50.0	1.8	
		調整済み残差	-5.15	5.15		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	17	0	17	
		(%)	10.4	0.0	10.2	
		調整済み残差	0.48	-0.48		χ^2（６）＝42.78**
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	16	0	16	
		(%)	9.8	0.0	9.6	
		調整済み残差	0.46	-0.46		
問７	目標とされている成績が達成されて(達成できなくて)	度数	4	1	5	
		(%)	2.4	50.0	3.0	
		調整済み残差	-3.91	3.91		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	76	0	76	
		(%)	46.3	0.0	45.8	
		調整済み残差	1.31	-1.31		
合計		度数	164	2	166	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

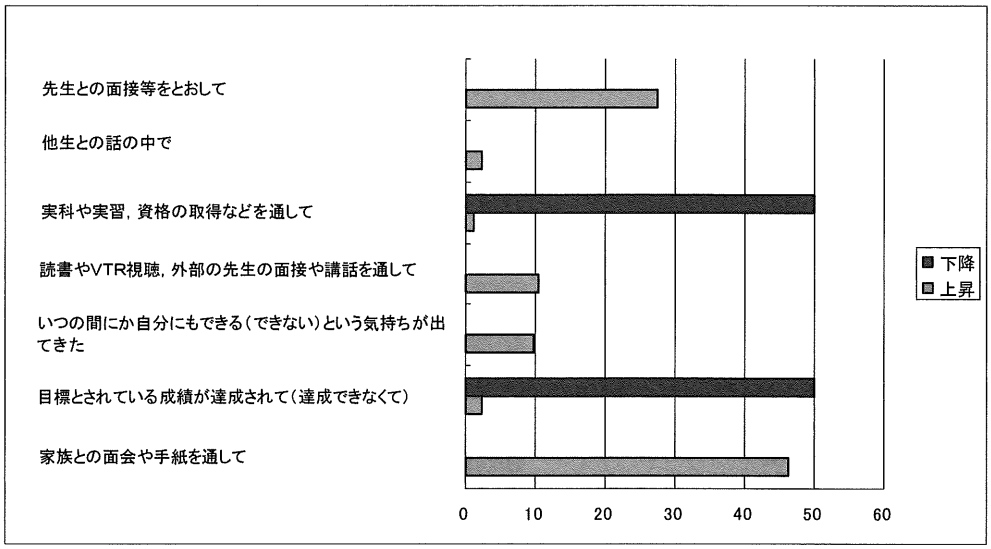


図29　短期処遇の本件非行についての自信度

イ　長期処遇

中間期において，入院時と比較して自信をなくした者（８名）が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」と「家族との面会や手紙を通して」（各37.5%）を選択し，自信がついた者（160名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」（43.8%）を選択している。この結果については表23，図30に示す。

表23　長期処遇（中間期）の本件非行についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	46	2	48	
		(%)	28.8	25.0	28.57	
		調整済み残差	0.23	-0.23		
問２	他生との話の中で	度数	6	0	6	
		(%)	3.8	0.0	3.57	
		調整済み残差	0.56	-0.56		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	3	0	3	
		(%)	1.9	0.0	1.79	
		調整済み残差	0.39	-0.39		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	2	0	2	
		(%)	1.3	0.0	1.19	
		調整済み残差	0.32	-0.32		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	9	0	9	
		(%)	5.6	0.0	5.36	χ^2（７）＝3.79
		調整済み残差	0.69	-0.69		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	23	3	26	
		(%)	14.4	37.5	15.48	
		調整済み残差	-1.76	1.76		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	1	0	1	
		(%)	0.6	0.0	0.60	
		調整済み残差	0.22	-0.22		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	70	3	73	
		(%)	43.8	37.5	43.45	
		調整済み残差	0.35	-0.35		
合計		度数	160	8	168	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

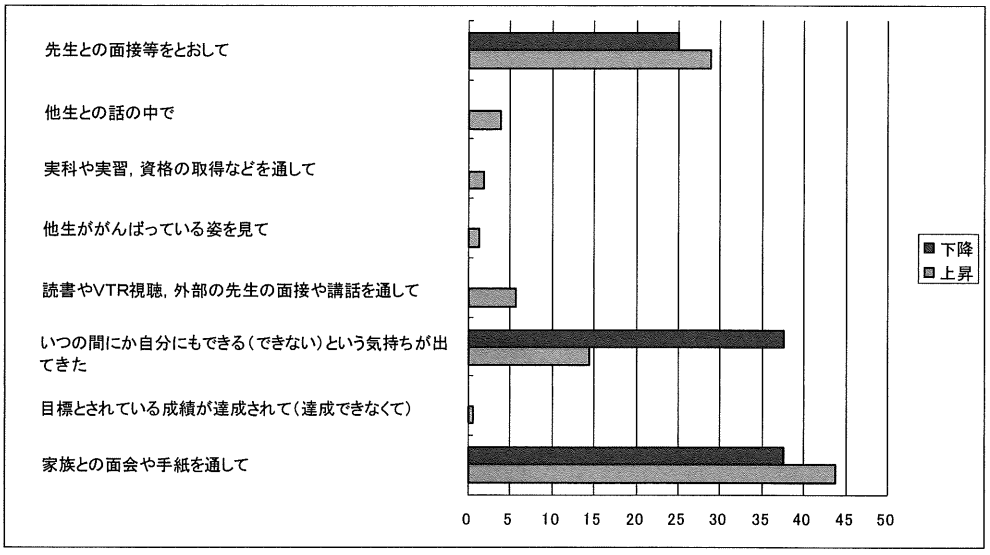


図30　長期処遇（中間期）の本件非行についての自信度

出院期において，入院時と比較して自信をなくした者（11名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」（27.3%）を選択し，自信がついた者（157名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」と「先生との面接等をとおして」（各38.9%）を選択している。この結果については表24，図31に示す。

表24　長期処遇（出院期）の本件非行についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	61	1	62	
		(%)	38.9	9.1	36.90	
		調整済み残差	1.98	-1.98		
問２	他生との話の中で	度数	1	1	2	
		(%)	0.6	9.1	1.19	
		調整済み残差	-2.50	2.50		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	3	0	3	
		(%)	1.9	0.0	1.79	
		調整済み残差	0.46	-0.46		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	1	0	1	
		(%)	0.6	0.0	0.60	
		調整済み残差	0.27	-0.27		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	6	0	6	χ^2（７）＝19.02*
		(%)	3.8	0.0	3.57	
		調整済み残差	0.66	-0.66		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	18	4	22	
		(%)	11.5	36.4	13.10	
		調整済み残差	-2.37	2.37		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	6	2	8	
		(%)	3.8	18.2	4.76	
		調整済み残差	-2.16	2.16		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	61	3	64	
		(%)	38.9	27.3	38.10	
		調整済み残差	0.76	-0.76		
合計		度数	157	11	168	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

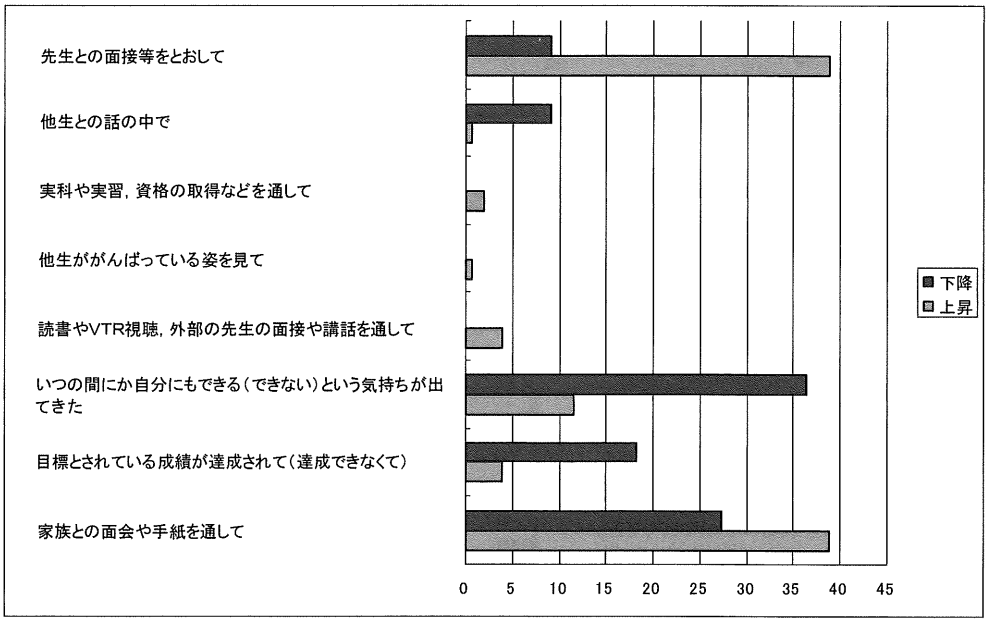


図31　長期処遇（出院期）の本件非行についての自信度

(5)　非行全般

ア　短期処遇

短期処遇において，入院時と比較して再非行をしないという自信をなくした者（自己効力が低下した者）は１名，再非行をしないという自信がついた者（自己効力が上昇した者）は166名であった。

自信がついた者が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」（53.6%）を選択している。この結果については，表25，図32に示す。

表25　短期処遇の非行全般についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	35	0	35	
		(%)	21.1	0.0	20.96	
		調整済み残差	0.52	-0.52		
問２	他生との話の中で	度数	4	0	4	
		(%)	2.4	0.0	2.40	
		調整済み残差	0.16	-0.16		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	4	1	5	
		(%)	2.4	100.0	2.99	
		調整済み残差	-5.71	5.71		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	2	0	2	
		(%)	1.2	0.0	1.20	
		調整済み残差	0.11	-0.11		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	9	0	9	χ^2（７）＝32.60**
		(%)	5.4	0.0	5.39	
		調整済み残差	0.24	-0.24		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	18	0	18	
		(%)	10.8	0.0	10.78	
		調整済み残差	0.35	-0.35		
問７	目標とされている成績が達成されて（達成できなくて）	度数	5	0	5	
		(%)	3.0	0.0	2.99	
		調整済み残差	0.18	-0.18		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	89	0	89	
		(%)	53.6	0.0	53.29	
		調整済み残差	1.07	-1.07		
合計		度数	166	1	167	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

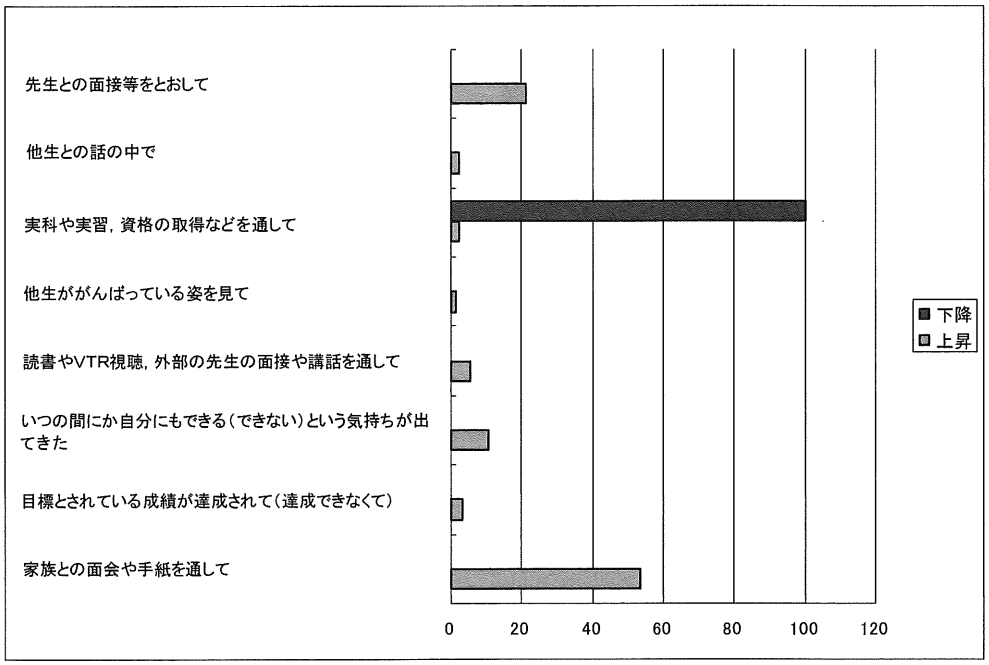


図32　短期処遇の非行全般についての自信度

イ　長期処遇

中間期において，入院時と比較して自信をなくした者（14名）が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」(28.6%)を選択し，自信がついた者（151名）が最も影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」(48.3%) を選択している。この結果については表26，図33に示す。

表26　長期処遇（中間期）の非行全般についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問１	先生との面接等をとおして	度数	35	3	38	
		(%)	23.2	21.4	23.03	
		調整済み残差	0.15	-0.15		
問２	他生との話の中で	度数	5	1	6	
		(%)	3.3	7.1	3.64	
		調整済み残差	-0.73	0.73		
問３	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	3	0	3	
		(%)	2.0	0.0	1.82	
		調整済み残差	0.53	-0.53		
問４	他生ががんばっている姿を見て	度数	5	1	6	
		(%)	3.3	7.1	3.64	
		調整済み残差	-0.73	0.73		
問５	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	10	0	10	χ^2（７）＝15.82*
		(%)	6.6	0.0	6.06	
		調整済み残差	0.99	-0.99		
問６	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	18	4	22	
		(%)	11.9	28.6	13.33	
		調整済み残差	-1.75	1.75		
問７	目標とされている成績が達成されて(達成できなくて)	度数	2	2	4	
		(%)	1.3	14.3	2.42	
		調整済み残差	-3.02	3.02		
問８	家族との面会や手紙を通して	度数	73	3	76	
		(%)	48.3	21.4	46.06	
		調整済み残差	1.93	-1.93		
合計		度数	151	14	165	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

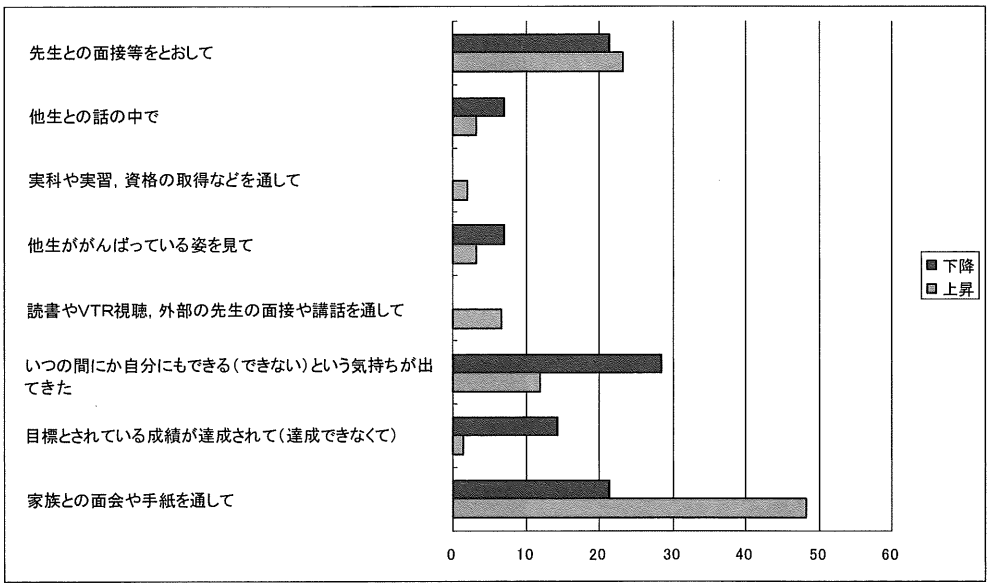


図33　長期処遇（中間期）の非行全般についての自信度

出院期において，入院時と比較して自信をなくした者（12名）が最も影響を受けたものとして「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」(50.0%)を選択し，自信がついた者（155名）が一番影響を受けたものとして「家族との面会や手紙を通して」(44.5%）を選択している。この結果については表27，図34に示す。

表27　長期処遇（出院期）の非行全般についての自信度

			上昇	下降	合計	検定結果
問1	先生との面接等をとおして	度数	47	1	48	
		(%)	30.3	8.3	28.74	
		調整済み残差	1.62	-1.62		
問2	他生との話の中で	度数	6	1	7	
		(%)	3.9	8.3	4.19	
		調整済み残差	-0.74	0.74		
問3	実科や実習，資格の取得などを通して	度数	6	0	6	
		(%)	3.9	0.0	3.59	
		調整済み残差	0.69	-0.69		
問4	他生ががんばっている姿を見て	度数	2	0	2	
		(%)	1.3	0.0	1.20	
		調整済み残差	0.40	-0.40		
問5	読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して	度数	4	0	4	χ^2（7）＝16.28*
		(%)	2.6	0.0	2.40	
		調整済み残差	0.56	-0.56		
問6	いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた	度数	17	6	23	
		(%)	11.0	50.0	13.77	
		調整済み残差	-3.78	3.78		
問7	目標とされている成績が達成されて(達成できなくて)	度数	4	0	4	
		(%)	2.6	0.0	2.40	
		調整済み残差	0.56	-0.56		
問8	家族との面会や手紙を通して	度数	69	4	73	
		(%)	44.5	33.3	43.71	
		調整済み残差	0.75	-0.75		
合計		度数	155	12	167	
		(%)	100.0	100.0	100.0	

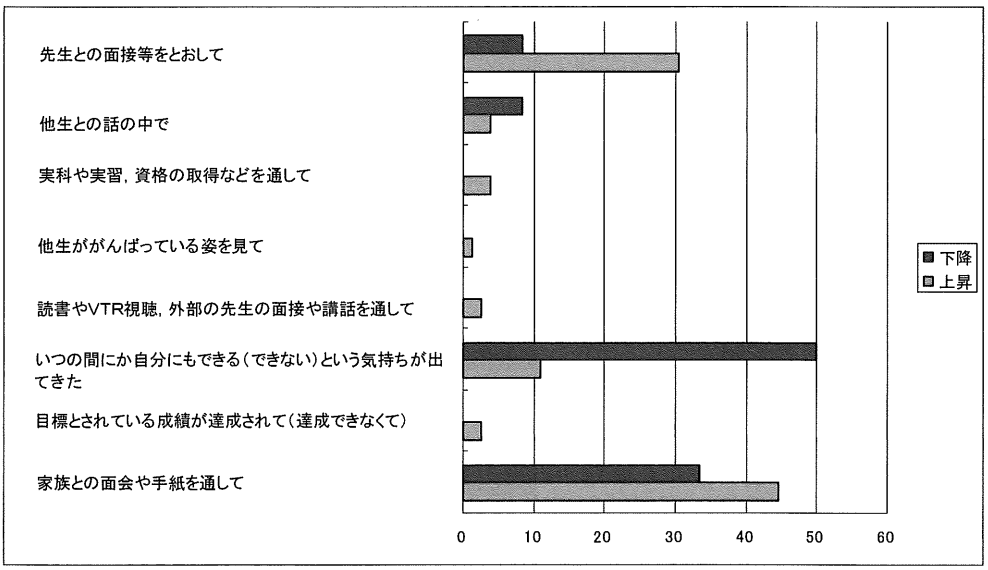


図34　長期処遇（出院期）の非行全般についての自信度

Ⅴ　考察

ここでは，「(その１)」の結果とも比較しながら，主に少年院在院中の自己効力等の変化という観点から考察を行う。

1　自己効力について

(1)　一般性自己効力（GSE）について

一般性自己効力尺度を用いて測定した結果，いくつか属性の項目においては，その下位項目において有意差が見られているものの，教育過程における変化については，短期処遇では「失敗に対する不安」と「能力の社会的位置づけ」のみに有意差が見られ，長期処遇では有意差は見られなかった。

これは「(その１)」で指摘したように，一般性自己効力尺度は，特定の行動に限定されない，より一般的な自己効力であることから，６か月から１年程度の少年院の在院期間では変化しにくいと考えられる。また，短期処遇よりも長期処遇の在院者の方が，非行性が進んでおり，変化にも時間が掛かる場合が多いため，このような結果になると考えられる。

(2)　対人的自己効力について

対人的自己効力尺度を用いた今回の結果は「(その１)」と異なり，短期処遇においては「友人への信頼・安定感」,「友人からの信頼」及び「肯定的自己評価」で有意差が見られた。また，長期処遇においても短期処遇と同様に「友人への信頼・安定感」,「友人からの信頼」及び「肯定的自己評価」で有意差が見られた。

短期処遇，長期処遇ともに「友人への信頼・安定感」及び「友人からの信頼」については，新入時よりも出院期が高くなり，「肯定的自己評価」については新入時よりも出院期が低くなっている。これらの結果は，「(その１)」と逆の結果であり，「(その１)」においては，「友人への信頼・安定感」及び「友人からの信頼」が出院期よりも新入時が低く，「肯定的自己評価」は新入時よりも出院期が高くなっていた。

「(その１)」においては，「友人への信頼・安定感」及び「友人からの信頼」が新入時より出院期が低くなった理由について，質問項目中の「友人」を入院前の向社会的とは言い難い友人を想定している可能性が考えられ，少年院に入院して間もない時期には，これまでの友人関係について肯定的にとらえており，その後，少年院内における教育・指導が進むにつれて，その関係を冷静にとらえるようになったのではないかと指摘した。しかしながら，今回の縦断的調査では，友人関係について，新入時よりも出院期のほうが肯定的にとらえているという逆の結果が得られており，在院少年個々の「友人観」について検討を加えた上で，得られた結果の意味を考える必要性があるといえる。

また，「肯定的自己評価」についても，「(その１)」では，松島（2001）の研究を引用し，友人関係と自尊感情のつながりが強く，時間とともに肯定的自己評価が向上してくることは，向社会的で親密な友人関係を持つ方向に向かっていると解釈できるとしている。しかしながら，今回の結果では，出院期のほうが新入時よりも「肯定的自己評価」が下がっており，単純に肯定的自己評価の向上が向社会的で親密な対人関係を持つ方向に向かっているとは解釈することが難しい。自尊感情と友人関係のつながりについても，さらに詳細に検討する必要がある。

(3)　自己効力の変化と自信度について

質問６以降で「～について自信がつきましたか」という自己効力の変化をとらえる質問を行ったが，その結果とこれらのGSE尺度，友人SE尺度，非行SE尺度及び仕事SE尺度の関連は，必ずしも明確ではない。本質問においては，短期処遇，長期処遇，教育過程，仕事，友人関係，非行の別にかかわらず，80～90%の割合で，「自信がついた」と答えた者が多いという結果が得られたが，少年院における教育が進むにつれて，自己効力が向上するという明確な証拠を得ることはできなかった。

これは自己のパーソナリティの認知に関わる問題であり，本来，自己効力を測定するべきところを，「自信」という言葉を用いることで，異なる部分を測定している可能性を否定できない。

2　自己効力の変化について

(1)　一般性自己効力の変化について

短期処遇と長期処遇のそれぞれについて，新入時と出院期の下位尺度の変化を比較した。

短期処遇，長期処遇いずれも「失敗に対する不安」と「行動の積極性」は新入時より出院期に高くなる者が多く，「能力の社会的位置づけ」は新入時より出院期が低くなる者が多い。

個人差が大きいので単純には比較できないものの，一般性自己効力はなかなか変化しにくいものであるとしても，少年院においては「失敗に対する不安」と「行動の積極性」が高まり，「能力の社会的位置づけ」が低くなる者が多い傾向にあるとも見える。

「失敗に対する不安」が高まるのは，少年たちが持っている入院前の万能感が，入院後，様々な活動を行う中で失われていくということも考えられるであろう。また，「能力の社会的位置づけ」が低くなるもの，少年院に入院することで，今までの非行文化という狭い人間関係を離れて，客観的に自らを省みる機会を得たことにより低くなったとも考えられる。

一方，「行動の積極性」が高まるのは，少年院における処遇が様々な場面で少年たちに積極性を求める働き掛けをしていることによると考えられる。一方，この要因が

下がる者については，祐宗ら（1985）が述べるように「失敗経験は自己効力予期を低め，弱め，狭める傾向がある」ことから，少年院では成功体験ばかりが生ずるわけではなく，失敗経験も生じ，そのような経験が多い者は「行動の積極性」が下がるであろう。

したがって，「行動の積極性」は新入時より出院期が低くなっている者の割合と，高くなっている者の割合の差が，「失敗に対する不安」，「能力の社会的位置づけ」と比べても大きくない。これは「行動の積極性」への働き掛けが少年院の中では比較的良好に機能していると考えられる。

また，全体的に，短期処遇よりも長期処遇のほうが，新入時よりも出院期が低くなっている割合が多い。これは，長期処遇の働き掛けがより客観的に自己を見つめる時間を持てるようになっているとも考えられる。

各因子の項目内容をみれば，「行動の積極性」については，少年院内の生活をそのままフィードバックできる内容であり，「失敗に対する不安」は少年院に入院するような事態になったことそのものが大きな要因として関わっているとも考えられる。

(2)　対人的自己効力の変化について

短期処遇，長期処遇ともに「友人への信頼・安定感」，「友人からの信頼」が新入時より出院期が高い者の割合が大きい。これは，先に検討した全体の平均と同じ傾向を表している。また，「肯定的自己評価」については下がっている者の割合も多いが，特に長期処遇については，新入時と出院期が変化しない者も同じ程度存在する。

「肯定的自己評価」については，先に検討したように，その項目内容と調査時期の要因によるものもあると考えられる。

(3)　非行的自己効力の変化について

全体の平均ではどの下位尺度でも有意差が見られなかったが，短期処遇においては，「メンバーとの関係」で新入時よりも出院期が下がった者の割合が多い。一方，「非行に対する有能感」は出院期のほうが上がっている。これは因子の項目内容から「メンバーとの関係」は非行と交友関係を中心とした項目内容であり，特に少年院の処遇の中で，非行と交友関係について考えを深めたことで「メンバーとの関係」について下位尺度の得点が下がった者が多いと考えられる。一方，「非行に対する有能感」は自分自身についての考えを深める項目であり，出院期に未だ内省が深まっていない者が多いとも考えられる。

3　自己効力の変化と情報源について

(1)　仕事

仕事面の自己効力の変化については，「(その１)」と同様に「実科や実習，資格取得などを通して」自信がついたとする者の割合が高い。また，「家族との面会や手紙を通して」自信がついたとする者の割合も高い。これは，「(その１)」で考察した結

果が縦断的調査においても明らかにされたと考えられる。

ただ，短期処遇と長期処遇を比較すると，長期処遇においては，「実科や実習，資格取得などを通して」とする者が，「家族との面会や手紙を通して」とする者よりも多い。

また，自信度が下がった者は，「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」を選んでいる者も多い。これは，情報源のうち「生理的状態・情動喚起」を想定していたが，下がった者が選択する率が高いということは，「うまくできない」という感じを明確化できないということも考えられる。つまり，結果として「やる気がない」が，その原因を十分に意識できていない状態であるとも考えられる。

少なくとも仕事に関する自己効力を向上させるためには，職業補導や職業訓練，資格取得などによる成功体験が効果的であると考えられる。祐宗ら（1985）は，「『遂行行動の達成』は，個人が自分で行動して必要な行動を達成できたという経験であるから，これを情報源とする自己効力は最も強く安定したものになると考えられる。」と述べているが，このことが少年院の処遇においても示されていると思われる。

(2) 交友

交友関係においては「(その１)」と同様に「先生との面接等をとおして」と「家族との面会や手紙を通して」自信がついたと回答した者の割合が高い。また，長期処遇においては，「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」が最も多く選択されており，先に考察したように，漠然とした不安感を持っている者もこの選択肢を選択しているとも推察される。

一方，交友関係の自信度が向上した者は直接的な他少年とのかかわりあいの中というよりは「先生との面接等をとおして」を選択している割合が多い。これは「(その１)」でも指摘したとおり，職員の働き掛けが効果を現しているとともに，交友関係は出院後の生活に関わることでもあり，実際の施設内での生活においては，少年自身が検証することが難しい面もあると思われる。

(3) 対人関係

「(その１)」で考察したことと同様に家庭や職場での対人関係を中心に尋ねた項目であり，「家族との面会や手紙を通して」自信が変化している者が多い。一方，自信を失っている者の多くは「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」を選択している者も多く，先ほどから指摘しているように，ここでも漠然とした不安感や焦燥感により，この項目を選択したとも考えられる。

(4) 本件非行予防

対人関係と同様に，「家族との面会や手紙を通して」が，再犯予防の自信に大きく影響を及ぼしている。また，次に「先生との面接等をとおして」も同様に効果を示している。自信を失う要因については，降下している者自体が少ないので，言及するのは難しい。

「(その１)」の中では「目標とされている成績が達成されて」再犯防止への自信が高まったと答える者がいたが，今回の調査では短期処遇，長期処遇のどちらもその要因を挙げる者は少なかった。

(5)　本件以外の非行予防

本件とは別に，非行全般に対する再非行予防の自信について尋ねたものであるが，「(4)本件非行予防」と同様に「家族との面会や手紙を通して」と「先生との面接等をとおして」が再犯予防の自信に大きく影響を及ぼしている。

「(その１)」においては，「実科や実習，資格取得などを通して」が本件以外の非行予防の情報源として大きく影響しているということを言及したが，今回の調査においては，短期処遇の中で非行全般の再非行予防の自信が下降した者のほとんどが，この「実科や実習，資格取得などを通して」を選択しており，長期処遇で選択した者がいないものの，影響があるということも考えられる。

(6)　自己効力の変化と情報源

自己効力の変化の情報源については，先に述べたように，遂行行動の達成，代理経験，言語的説得，生理的状態があるとされている。施設内での処遇を考えた場合に，これら４つについて，処遇する側が明確に意識することで，対象者の自己効力の変化を促すことができると考えられる。様々な施設内の活動を通じて，遂行行動を達成することは教育活動の根幹である。ただし，失敗経験は自己効力を下降させるわけであり，そのような点に留意することも実際の処遇場面では求められるであろう。

つまり，祐宗ら（1985）が「人が無益な行為であると判断して努力をしなくなるときには，少なくとも，２つの要因が働いていると考えられるのである。まず，第１の要因は，人間は自分がやらなければならないことを，自分自身の力で成し遂げることができると確信していないと，努力することをあきらめてしまうというものである。そして，第２の要因は，人間は自分自身に能力があることはわかっていても，周りの人々がそれによく答えてくれなかったり，また偏見を持っていて認めてくれなかったりすると，自分自身がいくら努力しても思わしい結果は得られないものと考えて努力することをあきらめてしまうというものである。」と指摘している。したがって，どのような情報源がどのような自己効力の変化に影響を与えるのかを理解した上で，さらに，これら２つの要因についても十分理解して働き掛けることが重要である。

4　自信度の降下と結果予期について

先の自信度の変化において，特に自信を失っている者の多くが「いつの間にか自分にもできないという気持ちが出てきた」を選択していることに着目したい。行動の先行要因として，結果予期と効力予期（自己効力は個人に認知された効力予期をいう。）があることについては「(その１)」でも述べたところである。結果予期は行動がどのような結果を引き起こすかという予期であり，つまり，「あることをするために具体的な方法が分かって

いる」状態である。結果予期を理解していることを前提に，その行動を達成するための行動を自らがうまくできるかについての予期が効力予期である。したがって，一般には十分な結果予期がなければ，高い効力予期は生まれないと考えられる。

本調査でも少ないながらも入院時と比較して自信が下降し，自己効力が下がっている者がいる。そのような者が結果予期を十分持っているにもかかわらず，自己効力が下がったのか，あるいは結果予期をも持ちえずに，何をして良いか分からないため，自己効力が上昇するような状況ではなかったのかについては，今後検証することが必要であろう。

さらに，努力しなくなる要因（自己効力が低下した要因）を詳細に調査することで，それぞれの対象者に合わせた対策も立てられる。様々な社会的な活動について自己効力が高くないのは，どのような経験が生み出しているのか，あるいは，少年院の中で自己効力が低下した要因は何であるのかについて詳細に調査，分析することが今後の少年院における処遇を充実させていくことになると考えられる。

Ⅵ　おわりに

本研究は，広範囲な横断的調査と，対象者を絞り込んだ縦断的調査を組み合わせて，少年院在院者の自己効力の変化を捉え，どのような情報によってその変化が促されているのかを検証するために行った。

これまでも当中央研究所においては少年院在院者の変化をとらえる調査研究を行ってきたが，個々の少年の個別の変化を捉える縦断的調査は，時間も手間も掛かり，実施をためらわれる状況でもあったところ，今回は，法務省矯正局を始め各少年院の御理解と御協力により調査を実施することができた。

既に報告のとおり，前回調査と今回報告した縦断的調査はそれほど大きな乖離がなく，これまで当中央研究所で行われていた横断的調査も少年たちの変化を概ね的確に捉えていたことを実証することができたと思われる。

最後に，本研究の実施に当たり，御協力を賜った法務省矯正局をはじめ少年院の各位に対して，心からの謝意を表します。

引用文献

松島るみ　2001　青年期における対人的自己効力間尺度の検討　応用教育心理学研究，第18巻（通巻第24号），5－11

中島義明・繁桝算男・箱田裕司（編）2005　新・心理学の基礎知識　有斐閣ブックス

祐宗省三・原野広太郎・柏木恵子・春木豊（編）1985　社会的学習理論の新展開　金子書房

資料１　調査対象者の基本属性

(1)　年齢

年齢別人員は，表－資１のとおりである。

(2)　非行種別

非行種別人員は，表－資２のとおりである。短期，長期処遇ともに窃盗が最も多い。短期処遇は，以下，道交法，傷害（致死を含む），恐喝，強盗と続き，一方，長期処遇は，強盗，道交法，傷害（致死を含む），恐喝の順となっている。

(3)　入院回数

入院回数別人員は，表－資３のとおりである。短期処遇においては，２回以上入院している者は１名のみであった。長期処遇では約70％が１回目で，約30％が２回以上であった。

(4)少年院種別等

少年院種別人員は，表－資４のとおりである。短期，長期処遇とも，約90％が中等少年院送致の者である。

(5)　処遇課程

処遇課程等別人員は，表－資５のとおりである。短期処遇においてはＳ３（進路指導課程）が90％以上を占め，長期処遇においてはＶ２（職業能力開発課程）が78.0％，Ｖ１（職業能力開発課程）が15.5％で，この２つの課程で93.5％を占めている。

(6)　学歴

学歴別人員は，表－資６のとおりである。短期処遇では約30％が中学卒業，約40％が高校中退となっている。長期処遇では約50％が中学卒業，約30％が高校中退となっている。

(7)　保護者

保護者の態様別人員は，表－資７のとおりである。短期処遇の約60％は実父母であり，約20％は実母である。長期処遇の約50％は実父母であり，約20％が実母である。

表一資１　年齢

年齢	短期処遇（平均年齢：17.7）		長期処遇（平均年齢：17.1）		合計（平均年齢：17.4）	
	度数	%	度数	%	度数	%
14歳	1	0.6%	5	3.0%	6	1.8%
15歳	11	6.5%	15	8.9%	26	7.7%
16歳	22	13.1%	49	29.2%	71	21.1%
17歳	33	19.6%	32	19.0%	65	19.3%
18歳	51	30.4%	32	19.0%	83	24.7%
19歳	40	23.8%	35	20.8%	75	22.3%
20歳	10	6.0%	0	0.0%	10	3.0%
合計	168	100.0%	168	100.0%	336	100.0%

注　短期処遇において年齢の欠損値が２名あり

表一資２　非行種別

非行種別	短期処遇		長期処遇		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
自動車・単車盗	1	0.6%	2	1.2%	3	0.9%
窃盗	57	33.7%	64	38.1%	121	35.9%
詐欺	1	0.6%	2	1.2%	3	0.9%
恐喝	18	10.7%	12	7.1%	30	8.9%
暴行	3	1.8%	3	1.8%	6	1.8%
傷害（致死）	20	11.8%	17	10.1%	37	11.0%
凶器準備	2	1.2%	3	1.8%	5	1.5%
強盗	17	10.1%	24	14.3%	41	12.2%
強姦	3	1.8%	3	1.8%	6	1.8%
強制わいせつ	3	1.8%	4	2.4%	7	2.1%
業過致死傷	2	1.2%	2	1.2%	4	1.2%
暴力行為等	3	1.8%	1	0.6%	4	1.2%
その他刑法犯	2	1.2%	2	1.2%	4	1.2%
道交法	31	18.3%	20	11.9%	51	15.1%
覚せい剤	2	1.2%	1	0.6%	3	0.9%
大麻・麻薬	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
毒劇物	2	1.2%	3	1.8%	5	1.5%
他の特別法犯	0	0.0%	2	1.2%	2	0.6%
条例違反	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
ぐ犯	1	0.6%	2	1.2%	3	0.9%
合計	169	100.0%	168	100.0%	337	100.0%

注　短期処遇において欠損値が１名あり

表一資３　入院回数

入院回数	短期処遇		長期処遇		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
１回	168	99.4%	136	81.0%	304	90.2%
２回	1	0.6%	31	18.5%	32	9.5%
３回	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
合計	169	100.0%	168	100.0%	337	100.0%

表一資４　少年院種別

種別	短期処遇		長期処遇		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
初等	15	8.8%	13	7.7%	28	8.3%
中等	155	91.2%	155	92.3%	310	91.7%
合計	170	100.0%	168	100.0%	338	100.0%

表一資５　処遇課程

処遇課程	短期処遇		長期処遇		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
S1	11	6.5%	0	0.0%	11	3.3%
S2	4	2.4%	0	0.0%	4	1.2%
S3	155	91.2%	0	0.0%	155	45.9%
G1	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
G2	0	0.0%	1	0.6%	1	0.3%
V1	0	0.0%	26	15.5%	26	7.7%
V2	0	0.0%	131	78.0%	131	38.8%
E1	0	0.0%	4	2.4%	4	1.2%
E2	0	0.0%	5	3.0%	5	1.5%
合計	170	100.0%	168	100.0%	338	100.0%

表一資6 最終学歴

最終学歴	短期処遇		長期処遇		合計	
	度数	%	度数	%	度数	%
中学校未修了	1	0.6%	2	1.2%	3	0.9%
中学校在学中	11	6.5%	4	2.4%	15	4.4%
中学校卒業	50	29.4%	83	49.4%	133	39.3%
高校在学中	9	5.3%	5	3.0%	14	4.1%
高校中退	69	40.6%	49	29.2%	118	34.9%
高校卒業	6	3.5%	3	1.8%	9	2.7%
定時制高校在学中	6	3.5%	6	3.6%	12	3.6%
定時制高校退学	7	4.1%	11	6.5%	18	5.3%
専門学校中退	3	1.8%	1	0.6%	4	1.2%
短大・大学在学中	3	1.8%	1	0.6%	4	1.2%
その他	5	2.9%	3	1.8%	8	2.4%
合計	170	100.0%	168	100.0%	338	100.0%

表一資7 保護者

保護者	短期処遇		長期処遇		合格	
	度数	%	度数	%	度数	%
実父母	100	58.8%	81	48.2%	181	53.6%
実父	16	9.4%	21	12.5%	37	10.9%
実母	37	21.8%	38	22.6%	75	22.2%
義父母	1	0.6%	0	0.0%	1	0.3%
実父義母	4	2.4%	4	2.4%	8	2.4%
義父実母	6	3.5%	17	10.1%	23	6.8%
他の親族	3	1.8%	5	3.0%	8	2.4%
施設	2	1.2%	1	0.6%	3	0.9%
その他	1	0.6%	1	0.6%	2	0.6%
合計	170	100.0%	168	100.0%	338	100.0%

'03 Ⅱ　整理番号

CARIC調査

職員用調査票（長期処遇：縦断用）

記入方法

① この調査票は，調査対象となった少年一人一人について記入してください。
② 整理番号は，少年用調査票の整理番号と一致するように記入してください。
③ 記入欄には，特に要領を示した場合のほか，項目欄の該当する番号を記入してください。
④ この調査票は，対象少年に対する調査が終了してから記入してください。
⑤ 記入に迷う箇所があれば，財団法人矯正協会附属中央研究所研究第二部（工藤）にお問い合わせください。

TEL:03−3319−6511

調査日：平成15年　　月　　日

庁名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

問	項目	記入欄
1	性別（男は1，女は2を記入してください。） 1…男　2…女	
2	入院時年齢（17歳であれば17のように，入院時の年齢を数字で記入してください。）	
3	少年院入院回数（今回を含め入院回数をそのまま記入してください。）	
4	知能SS（新田中3B式知能検査の知能偏差値を数字で記入してください。未実施・不明の場合は99と記入してください。）	
5	少年院入院時の非行名　（複数ある場合は主たる非行名を1つだけ記入してください。未遂も含まれます。） 1…自動車・単車盗　2…窃盗　3…詐欺　4…恐喝 5…暴行　6…傷害（致死）　7…凶器準備　8…強盗 9…放火　10…殺人　11…強姦　12…強制わいせつ 13…業過致死傷　14…暴力行為等　15…その他の刑法犯　16…銃刀法 17…売春法　18…道交法　19…覚せい剤　20…麻薬・大麻 21…毒劇物　22…他の特別法犯　23…条例違反　24…ぐ犯	

*** 次のページに進んでください。 ***

問	項目	記入欄
6	現在の種別と分類級（次の中から第1次的なものを1つ選び記入してください。また，上段には種別（A〜D）を，下段には下記の番号を記入しておいてください。） 1…S1　2…S2　3…S3　4…O　5…G1　6…G2 7…G3　8…V1　9…V2　10…E1　11…E2　12…H1 13…H2　14…P1　15…P2　16…M1　17…M2	種別 分類級
7	最終学歴（定時制中学は中学，15その他の場合は具体的に記入してください。） 1…中学校未修了　2…中学校在学中　3…中学校卒業 4…高校在学中　5…高校中退　6…高校卒業 7…定時制高校在学中　8…定時制高校退学　9…定時制高校卒業 10…専門学校在学中　11…専門学校中退　12…短大・大学在学中 13…短大・大学中退　14…不明　15…その他（　　）	
8	保護者（下記から選び，該当番号を1つ記入してください。） 1…実父母　2…実父　3…実母　4…義父母　5…実父義母 6…義父実母　7…他の親族　8…施設　9…その他　10…不明	
9	職業補導（実習等を受けた職業補導種目について下記から選び，該当番号を1つ記入してください。複数の種目にまたがる者については，一番期間の長かった種目を記入してください。） 1…木工　2…農業　3…建築　4…園芸　5…溶接 6…板金　7…職業補導　8…自動車整備　9…情報処理 10…電気工事　11…印刷　12…技術家庭　13…事務・ワープロ 14…建設機械運転　15…農業　16…土木建築　17…応接サービス 18…手工芸　19…配管　20…介護サービス 21…クリーニング　22…理容　99…その他　00…なし	
10	資格・免許（現職場において取得した資格を下記から選び，該当番号を記入してください。複数回答可） 1…溶接関係　2…珠算　3…自動車整備　4…情報処理関係 5…電気工事士　6…危険物取扱者　7…パソコン検定 8…ワープロ検定　9…大型特殊自動車免許 10…車両系建設機械運転技能講習　11…小型車両系建設機械運転特別教育 12…販売士　13…簿記検定　14…消防設備士　15…介護関係 16…クリーニング　17…漢字検定　18…大学検定　19…その他	

*** 次のページに進んでください。 ***

問	項目	記入欄		
			目標	成績
11	成績1（入院して最初の月の成績をa～eで記載してください。個人別目標は、その目標に合致すると思われる項目を下記のから選び、該当番号を記入の上、成績を記入してください。目標の内容が複数の項目にまたがる場合においても、主たるものを1つ記入してください。） 1…薬物　2…交通　3…不良交友　4…暴力団 5…性　6…基本的生活態度　7…規範意識・規律 8…自主性・主体性　9…責任感　10…協調性 11…忍耐性（根気）　12…自信（劣等感） 13…意欲（積極性）　14…自己統制　15…家庭 16…将来の生活設計　17…進学（復学） 18…その他　99…なし	個人1		
		個人2		
		個人3		
		規範意識		
		基本的生活態度		
		学習態度		
		対人関係		
		生活設計		
		総合評価		
12	成績2（第2回調査日直前の月の成績をa～eで記載してください。個人別目標は、その目標に合致すると思われる項目を下記のから選び、該当番号を記入の上、成績を記入してください。目標の内容が複数の項目にまたがる場合においても、主たるものを1つ記入してください。） 1…薬物　2…交通　3…不良交友　4…暴力団 5…性　6…基本的生活態度　7…規範意識・規律 8…自主性・主体性　9…責任感　10…協調性 11…忍耐性（根気）　12…自信（劣等感）　13…意欲（積極性） 14…自己統制　15…家庭　16…将来の生活設計 17…進学（復学）　18…その他　99…なし	個人1		
		個人2		
		個人3		
		規範意識		
		基本的生活態度		
		学習態度		
		対人関係		
		生活設計		
		総合評価		
13	成績3（第3回調査日直前の月の成績をa～eで記載してください。 個人別目標は、その目標に合致すると思われる項目を下記のから選び、該当番号を記入の上、成績を記入してください。目標の内容が複数の項目にまたがる場合においても、主たるものを1つ記入してください。） 1…薬物　2…交通　3…不良交友　4…暴力団 5…性　6…基本的生活態度　7…規範意識・規律 8…自主性・主体性　9…責任感　10…協調性 11…忍耐性（根気）　12…自信（劣等感） 13…意欲（積極性）　14…自己統制　15…家庭 16…将来の生活設計　17…進学（復学）　18…その他 99…なし	個人1		
		個人2		
		個人3		
		規範意識		
		基本的生活態度		
		学習態度		
		対人関係		
		生活設計		
		総合評価		

＊＊＊　次のページに進んでください。　＊＊＊

問	項目	記入欄	
14	問題範別（現施設において受講した問題範別(性別)講座を下記の項目から選び、該当番号を記入してください。複数回答可） 1…薬物　2…交通　3…不良交友　4…性 5…暴力団　6…対人関係　7…その他　99…なし		
15	懲戒回数（それぞれの懲戒について回数を記入してください。ただし、9回以上については「9」、なしについては「0」を記入してください。）	訓戒	
		減点	
		謹慎	
16	賞回数（それぞれの賞について回数を記入してください。ただし、9回以上については「9」、なしについては「0」を記入してください。）	賞票	
		殊遇	
		その他	

＊＊＊ 以上です。御協力に心より感謝いたします。（財団法人矯正協会附属中央研究所）＊＊＊

'03 Ⅱ

整理番号

CARIC調査

（少年用調査票Ⅲ）

新入時期と中間期に同じような調査を受けたことと思いますが，これは，みなさんが少年院の生活の中で，変わったところや，変わらなかったところについての調査です。前回と同じ質問もありますが，前回と答えが変わっても構いません。今感じていることをそのまま答えてください。

答えについては，前回と同じように，人それぞれ，みんな考え方は違うので，どの答えが正しいとか，間違っているということはありません。また，この結果は，全員の分をまとめて取り扱いますので，名前を書く必要はありません。みなさんの成績とも関係がありませんから，思ったまま，感じたままを答えてください。

答え方

質問ごとに，自分の考えにあてはまる答えの番号を選んで○印をつけ，下の例にならって答えてください。

	あてはまらない	あまりあてはまらない	すこしあてはまる	あてはまる
例：私は，サッカーをすることが好きである。	1	2	3	④

「あてはまる」が一番あなたの考えに近いときは，ここに○をつけます。

次のページから質問に入ります。次のページに進んで，順番に答えてください。

質問１

あなた自身のことについてお尋ねします。次の１から１６までの文章を読んで，右側の回答欄の「あてはまる」から「あてはまらない」までのうち，今のあなたの考えに一番近いと思う答えの数字に○をつけてください。

回答欄		あてはまる	すこしあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1	何か仕事をするときは，自信を持ってやるほうである。	1	2	3	4
2	過去に犯した失敗や嫌な経験を思い出して，暗い気持ちになることがよくある。	1	2	3	4
3	友人より優れた能力がある。	1	2	3	4
4	仕事を終えた後，失敗したと感じることのほうが多い。	1	2	3	4
5	人と比べて心配性なほうである。	1	2	3	4
6	何かを決めるとき，迷わずに決定するほうである。	1	2	3	4
7	何かをするとき，うまくゆかないのではないかと不安になることが多い。	1	2	3	4
8	ひっこみじあんなほうだと思う。	1	2	3	4
9	人より記憶力がよいほうである。	1	2	3	4
10	結果の見通しがつかない仕事でも，積極的に取り組んでゆくほうだと思う。	1	2	3	4
11	どうやったらよいか決心がつかずに仕事にとりかかれないことが多い。	1	2	3	4
12	友人よりも特に優れた知識を持っている分野がある。	1	2	3	4
13	どんなことでも積極的にこなすほうである。	1	2	3	4
14	小さな失敗でも人よりずっと気にするほうである。	1	2	3	4
15	積極的に活動するのは，苦手なほうである。	1	2	3	4
16	世の中に貢献できる力があると思う。	1	2	3	4

＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問２

あなた自身とあなたの友人のことについてお尋ねします。たくさんの友人がいる人は，その中でも特に親しい人のことを考えてください。次の１から１７までの文章を読んで，右側の回答欄の「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までのうち，あなたの考えに一番近いと思う答えの数字に○をつけてください。

		とてもそう思う	そう思うほうだと思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1	友人はいつも私のことをわかってくれていると思う。	1	2	3	4
2	友人に何を話してもわかってくれていると思う。	1	2	3	4
3	私が友人を誘えば一緒に行動してくれると思う。	1	2	3	4
4	私は友人に信頼されている。	1	2	3	4
5	友人は私のことを嫌いにならないと思う。	1	2	3	4
6	私は誰とでも気軽に話せる。	1	2	3	4
7	私には心から信頼できる友人がいる。	1	2	3	4
8	私は人にして欲しいことをきちんと説明できる。	1	2	3	4
9	友人は自分を必要としてくれている。	1	2	3	4
10	困ったときは，友人に相談しようと思う。	1	2	3	4
11	私にとって友人は頼りになるものだと思う。	1	2	3	4
12	友人と元気を分かち合うことができると思う。	1	2	3	4
13	初めてあう人にでもうまく自己紹介ができる。	1	2	3	4
14	私は自分で自分をほめることができる。	1	2	3	4
15	私は自分に満足している。	1	2	3	4
16	私は同級生だけでなく，先輩後輩ともうまくやっていくことができる。	1	2	3	4
17	私は友だちといることが好きである。	1	2	3	4

＊＊＊ 次のページに進んでください。＊＊＊

質問３

仕事のことについてお尋ねします。ここでの「仕事」というのは，出院後に就く仕事を考えてください。次の１から２０までの文章を読んで，右側の回答欄の「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までのうち，あなたの考えに一番近いと思う答えの数字に○をつけてください。

		とてもそう思う	そう思うほうだと思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1	仕事ができる自信がすごくある。	1	2	3	4
2	仕事ができると親しい仲間からほめられる。	1	2	3	4
3	仕事ができないと親しい仲間からバカにされる。	1	2	3	4
4	仕事ができると親（いない人は親がわりの人）からほめられる。	1	2	3	4
5	仕事ができないと親（いない人は親がわりの人）からバカにされる。	1	2	3	4
6	仕事を１ケ月以上つづける（これから仕事をするつもりのない人は，もし自分が仕事をすることになったら，と思って答えてください。）自信がある。	1	2	3	4
7	仕事を１ケ月以上つづけると親しい仲間からほめられる。	1	2	3	4
8	仕事を１ケ月以上つづけられないと親しい仲間からバカにされる。	1	2	3	4
9	仕事を１ケ月以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からほめられる。	1	2	3	4
10	仕事を１ケ月以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からバカにされる。	1	2	3	4
11	仕事を１年以上つづける自信がある。	1	2	3	4
12	仕事を１年以上つづけると親しい仲間からほめられる。	1	2	3	4
13	仕事を１年以上つづけられないと親しい仲間からバカにされる。	1	2	3	4
14	仕事を１年以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からほめられる。	1	2	3	4
15	仕事を１年以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からバカにされる。	1	2	3	4

＊＊＊ 次のページに進んでください。＊＊＊

＊＊＊　引き続き非行についての質問に答えてください＊＊＊

		とてもそう思う	すこしそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
6	人よりも非行ではうまくできると思っている。	1	2	3	4
7	非行をする前から，失敗したときのことを心配してしまう。	1	2	3	4
8	失敗や周りの目が気になるので，あまり非行は好きでない。	1	2	3	4
9	非行のとき，緊張しすぎて失敗することがある。	1	2	3	4
10	どんな非行においても自分は素質があると思う。	1	2	3	4
11	本件非行とおなじようなことができる自信がある。	1	2	3	4
12	本件非行とおなじようなことができると親しい仲間からほめられる。	1	2	3	4
13	本件非行とおなじようなことができないと親しい仲間からバカにされる。	1	2	3	4
14	本件非行とおなじようなことができないと親（いない人は親がわりの人）からほめられる。	1	2	3	4
15	本件非行とおなじようなことができないと親（いない人は親がわりの人）からバカにされる。	1	2	3	4

質問５

出院後の生活についてお尋ねします。次の１から５までの文章を読んで，右側の回答欄の「よくわかっている」から「まったくわからない」までのうち，今のあなたの考えに一番近いと思う答えの数字に○をつけてください。

		よくわかっている	すこしはわかる	あまりわからない	まったくわからない
1	仕事を続けていく具体的な方法がわかっている。	1	2	3	4
2	交友関係で失敗しない具体的な方法がわかっている。	1	2	3	4
3	職場や家庭の対人関係で失敗しない具体的な方法がわかっている。	1	2	3	4
4	本件非行を二度と行わない具体的な方法がわかっている。	1	2	3	4
5	本件非行だけでなく再非行しない具体的な方法がわかっている。	1	2	3	4

＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

＊＊＊　引き続き仕事についての質問に答えてください＊＊＊

		回答欄			
		とてもそう思う	すこしそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
16	仕事を１０年以上つづける自信がある。	1	2	3	4
17	仕事を１０年以上つづけると親しい仲間からほめられる。	1	2	3	4
18	仕事を１０年以上つづけられないと親しい仲間からバカにされる。	1	2	3	4
19	仕事を１０年以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からほめられる。	1	2	3	4
20	仕事を１０年以上つづけると親（いない人は親がわりの人）からバカにされる。	1	2	3	4

質問４

あなたの非行のことについてお尋ねします。次の１から１５までの文章を読んで，右側の回答欄の「とてもそう思う」から「まったくそう思わない」までのうち，あなたの考えに一番近いと思う答えの数字に○をつけてください。

（本件非行とは，今回少年院に入ることになった非行のことです。ほかの質問でも同じ意味です。）

		回答欄			
		とてもそう思う	すこしそう思う	あまりそう思わない	まったくそう思わない
1	非行の楽しい思い出がたくさんある。	1	2	3	4
2	非行をしているとき，他の仲間はうまくできるように手助けしてくれた。	1	2	3	4
3	非行をしているとき，うまくできる方法を友だちが一緒に考えてくれた。	1	2	3	4
4	非行で失敗すると，友だちがもっとがんばれと励ましてくれた。	1	2	3	4
5	今まで非行すると，すぐにうまくいくことが多かった。	1	2	3	4

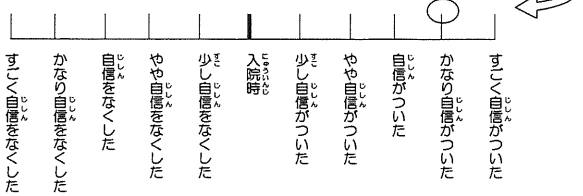
＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

答え方

ここからは下の例にならって答えてください。

例1（質問6，8，10，12，14を回答するときの例）

現在が入院時に比べて，「かなり自信がついた」場合には，ここに○をつけます。



例2（質問7、9、11、13、15を回答するときの例）

質問　好きな色をひとつ選んで、その番号に○をつけてください。

1　赤
2　青
③　黄　⟸　*好きな色が「黄」の場合は，3に○をつけます。*

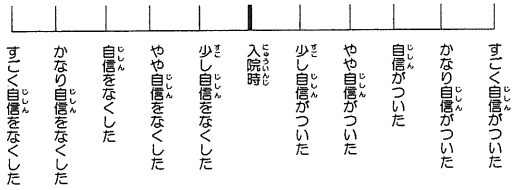
＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問6

少年院生活で，「仕事」についての自信がつきましたか。

答え方にならって，現在のあなたの自信の程度に一番当てはまるところに○をつけてください。

入院したときと現在とで自信が変わらなかった場合は「入院時」のところに○をつけてください。



質問7

「仕事」についての自信で，特に自分に影響があったと思うことを1から8までで，ひとつだけ選んで，その数字を○で囲んでください。

あてはまるものがない場合でも，一番近いものをひとつ選んでください。

1　先生との面接等をとおして
2　他生との話の中で
3　実科や実習，資格の取得などを通して
4　他生ががんばっている姿を見て
5　読書やVTR視聴，外部の先生の面接や講話を通して
6　いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた
7　目標としている成績が達成されて（達成できなくて）
8　家族との面会や手紙を通して

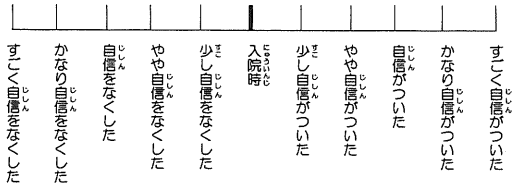
＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問８

少年院生活で，「出院後の交友関係」についての自信がつきましたか。

答え方にならって，現在のあなたの自信の程度に一番当てはまるところに○をつけてください。

入院したときと現在とで自信が変わらなかった場合は「入院時」のところに○をつけてください。



質問９

「出院後の交友関係」についての自信で，特に自分に影響があったと思うことを１から８までで，ひとつだけ選んで，その数字を○で囲んでください。

あてはまるものがない場合でも，一番近いものをひとつ選んでください。

1　先生との面接等をとおして
2　他生との話の中で
3　実科や実習，資格の獲得などを通して
4　他生ががんばっている姿を見て
5　読書やＶＴＲ視聴，外部の先生の面接や講話を通して
6　いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた
7　目標としている成績が達成されて（達成できなくて）
8　家族との面会や手紙を通して

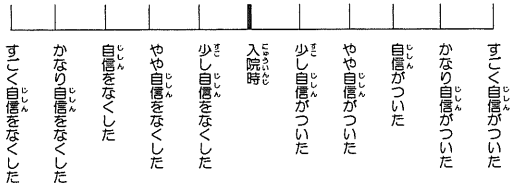
＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問１０

少年院生活で「職場や家庭での対人関係」についての自信がつきましたか。

答え方にならって，現在のあなたの自信の程度に一番当てはまるところに○をつけてください。

入院したときと現在とで自信が変わらなかった場合は「入院時」のところに○をつけてください。



質問１１

「職場や家庭での対人関係」についての自信で，特に自分に影響があったと思うことを１から８までで，ひとつだけ選んで，その数字を○で囲んでください。

あてはまるものがない場合でも，一番近いものをひとつ選んでください。

1　先生との面接等をとおして
2　他生との話の中で
3　実科や実習，資格の獲得などを通して
4　他生ががんばっている姿を見て
5　読書やＶＴＲ視聴，外部の先生の面接や講話を通して
6　いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた
7　目標としている成績が達成されて（達成できなくて）
8　家族との面会や手紙を通して

＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問１２

少年院生活で「本件非行と同じことをしない」自信がつきましたか。

答え方にならって，現在のあなたの自信の程度に一番当てはまるところに○をつけてください。

入院したときと現在とで自信が変わらなかった場合は「入院時」のところに○をつけてください。

すごく自信をなくした　かなり自信をなくした　自信をなくした　やや自信をなくした　少し自信をなくした　入院時　少し自信がついた　やや自信がついた　自信がついた　かなり自信がついた　すごく自信がついた

質問１３

「本件非行と同じことをしない」自信で，特に自分に影響があったと思うことを１から８までで，ひとつだけ選んで，その数字を○で囲んでください。

あてはまるものがない場合でも，一番近いものをひとつ選んでください。

1　先生との面接等をとおして
2　他生との話の中で
3　実科や実習，資格の取得などを通して
4　他生ががんばっている姿を見て
5　読書やＶＴＲ視聴，外部の先生の面接や講話を通して
6　いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた
7　目標としている成績が達成されて（達成できなくて）
8　家族との面会や手紙を通して

＊＊＊　次のページに進んでください。＊＊＊

質問１４

少年院生活で「本件非行だけでなく、再非行しない」自信がつきましたか。

答え方にならって，現在のあなたの自信の程度に一番当てはまるところに○をつけてください。

入院したときと現在とで自信が変わらなかった場合は「入院時」のところに○をつけてください。

すごく自信をなくした　かなり自信をなくした　自信をなくした　やや自信をなくした　少し自信をなくした　入院時　少し自信がついた　やや自信がついた　自信がついた　かなり自信がついた　すごく自信がついた

質問１５

「本件非行だけでなく、再非行しない」についての自信で，特に自分に影響があったと思うことを１から８までで，ひとつだけ選んで，その数字を○で囲んでください。

あてはまるものがない場合でも，一番近いものをひとつ選んでください。

1　先生との面接等をとおして
2　他生との話の中で
3　実科や実習，資格の取得などを通して
4　他生ががんばっている姿を見て
5　読書やＶＴＲ視聴，外部の先生の面接や講話を通して
6　いつの間にか自分にもできる（できない）という気持ちが出てきた
7　目標としている成績が達成されて（達成できなくて）
8　家族との面会や手紙を通して

これでおわりです。つけ忘れがないか，もう一度１枚目から見直してください
＊＊＊　御協力ありがとうございました。＊＊＊